

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第210集

馬場館遺跡・小吹野遺跡発掘調査報告書

東北横断自動車道秋田線建設関連遺跡発掘調査

(財) 岩手県文化振興事業団
埋蔵文化センター

馬場館遺跡・小吹野遺跡発掘調査報告書

東北横断自動車道秋田線建設関連遺跡発掘調査

序

本県には旧石器時代の遺跡をはじめとする数多くの埋蔵文化財包蔵地があり、平成5年度の岩手県教育委員会のまとめでは8700箇所を越えております。先人の残したこれらの埋蔵文化財を保護し、保存していくことは私たち県民に課せられた重大な責務であります。

一方、本調査の原因となりました東北横断自動車道建設事業を例にあげるまでもなく、現代社会を豊かにし、快適な生活をおくるための地域開発もまた県民の切実な願いであります。埋蔵文化財の保護・保存と地域開発という相容れない要素をもつ事業の調和のとれた施策が今日的課題となっております。

財団法人岩手県文化振興事業団は、埋蔵文化財センターの創設以来、埋蔵文化財保護の立場にたって、県教育委員会の指導と調整のもとに、開発事業によってやむをえず消滅する遺跡について発掘調査を行い、その記録を残す措置をとってまいりました。

本報告書は、東北横断自動車道秋田線建設に関連して、平成5年度に発掘調査した馬場館遺跡・小吹野遺跡の2遺跡の調査結果をまとめたものであります。これらの2遺跡は和賀川右岸の河岸段丘上に立地し、調査の結果、馬場館遺跡からは縄文時代後期・晩期、弥生時代の土器や石器、小吹野遺跡からは縄文時代中期・晩期の土器や石器が発見されました。

この報告書が広く活用され、考古学の研究に寄与するとともに埋蔵文化財に対する関心と理解をいっそう深めることに役立つことを切に希望いたします。

最後になりましたが、発掘調査及び報告書作成にご協力とご援助を賜りました日本道路公団仙台建設局北上工事事務所や北上市教育委員会をはじめとする多くの関係機関・関係各位に深く感謝申し上げます。

平成7年3月

財団法人 岩手県文化振興事業団

理事長 高橋 令則

例 言

- 1 本報告書は岩手県北上市和賀町山口地区に所在する馬場館遺跡・小吹野遺跡の発掘調査結果を収録したものである。
- 2 本遺跡の調査は、東北横断自動車道秋田線建設に伴う記録保存を目的とした緊急発掘調査である。調査は日本道路公団仙台建設局と岩手県教育委員会文化課との協議を経て、財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが実施した。
- 3 本遺跡の岩手県遺跡台帳の遺跡番号及び遺跡調査略号は次のとおりである。
馬場館遺跡 遺跡番号 ME62-0337 遺跡調査略号 BB-92
小吹野遺跡 遺跡番号 ME62-0304 遺跡調査略号 KB-92
- 4 発掘調査期間、発掘調査面積は次のとおりである。
馬場館遺跡 発掘調査期間 平成5年4月13日～6月30日 発掘調査面積 5,200㎡
小吹野遺跡 発掘調査期間 平成5年7月1日～9月14日 発掘調査面積 5,400㎡
- 5 発掘調査は、馬場館遺跡、小吹野遺跡ともに高橋正之、稲垣雅弘が担当した。
- 6 室内整理及び報告書の執筆は高橋正之が行った。
- 7 石質鑑定は佐藤二郎氏（長内水源工業）に依頼した。
- 8 野外調査にあたっては、北上市教育委員会及び地元の方々の御協力をいただいた。
- 9 本遺跡から出土した遺物及び調査資料は岩手県立埋蔵文化財センターに保管している。

目次

序
例言

本文

I	調査に至る経過	1
II	遺跡の立地と環境	1
1	遺跡の位置	1
2	地理的環境	1
3	周辺の遺跡	3
III	調査方法と室内整理	7
1	グリッド設定	7
2	グリッドの命名	7
3	粗掘・精査	7
4	実測図の作成	8
5	写真撮影	8
6	室内整理	8
IV	馬場館遺跡	9
1	遺跡の位置	10
2	基本層序	10

3	検出遺構及び遺物	12
(1)	検出遺構	12
(2)	出土遺物	12
4	まとめ	14
V	小吹野遺跡	21
1	遺跡の位置	22
2	基本層序	22
3	検出遺構及び遺物	24
(1)	検出遺構	24
(2)	出土遺物	24
4	まとめ	25
	報告書抄録	44

図

版

第1図	遺跡位置図	2
第2図	周辺の遺跡位置図	6
第3図	馬場館遺跡基本層序	10
第4図	馬場館遺跡グリッド配置図	11
第5図	馬場館遺跡出土遺物(土器)	15
第6図	馬場館遺跡出土遺物(石器1)	16
第7図	馬場館遺跡出土遺物(石器2)	17

第8図	馬場館遺跡出土遺物(石器3)	18
第9図	小吹野遺跡基本層序	22
第10図	小吹野遺跡グリッド配置図	23
第11図	小吹野遺跡出土遺物(土器)	26
第12図	小吹野遺跡出土遺物(石器1)	27
第13図	小吹野遺跡出土遺物(石器2)	28
第14図	小吹野遺跡出土遺物(石器3)	29

写真図版

写真図版1	馬場館遺跡・小吹野遺跡空撮	32
写真図版2	馬場館遺跡空撮・遠景	33
写真図版3	馬場館遺跡土層断面・西側 発掘状況	34
写真図版4	小吹野遺跡空撮	35
写真図版5	小吹野遺跡発掘状況	36
写真図版6	小吹野遺跡遠景・土層断面	37

写真図版7	馬場館遺跡出土遺物(土器)	38
写真図版8	馬場館遺跡出土遺物(石器1)	39
写真図版9	馬場館遺跡出土遺物(石器2)	40
写真図版10	小吹野遺跡出土遺物(土器)	41
写真図版11	小吹野遺跡出土遺物(石器1)	42
写真図版12	小吹野遺跡出土遺物(石器2)	43

表

表 1 周辺の遺跡一覧表……………5	表 2 馬場館遺跡出土遺物観察表……………19
表 3 小吹野遺跡出土遺物観察表……………30	

I 調査に至る経過

東北横断自動車道秋田線は岩手県北上市から秋田県秋田市に至る総延長123kmの高速道路である。第9次、第10次施工区間のうち、北上ジャンクションから秋田県境までは延33.9kmである。

この区間の埋蔵文化財包蔵地については岩手県教育委員会が昭和56年から分布調査を行ってきたが、日本道路公団仙台建設局からの分布調査結果の照会に対して昭和62年5月に回答している。それにもとづいた両者の協議の結果、やむを得ず消滅する遺跡については事前の発掘調査を実施することとした。

昭和63年以降、岩手県教育委員会が日本道路公団仙台建設局に発掘調査事業について照会して回答を得たのち、日本道路公団仙台建設局と岩手県教育委員会、(財)岩手県文化振興事業団の3者の協議を経て、(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが発掘調査を実施することとした。

これにより、岩手県教育委員会は、平成5年度埋蔵文化財調査事業について、平成5年3月1日付「教文第1169号」により財団法人岩手県文化振興事業団へ通知し、それを受けて当埋蔵文化財センターは、平成5年4月1日付委託契約にもとづいて、2遺跡の発掘調査に着手した。

II 遺跡の立地と環境

1 遺跡の位置

馬場館遺跡・小吹野遺跡の所在する北上市和賀町は、北は花巻市、南は金ヶ崎町と胆沢町、西は湯田町と沢内村と接している。遺跡は東日本旅客鉄道北上線横川目駅の南西約2.5kmに位置し、地形図上では、国土地理院発行の5万分の1地形図「川尻」NJ-54-20-1の図幅に含まれる。

2 地理的環境

北上市は岩手県で最も広い平野である北上盆地のほぼ中央に位置しており、東は古生代・中



第1図 遺跡位置図

生代の岩石が分布する北上山地、東側には新生代になってから形成された奥羽山脈が南北に連なっている。市の東側を北上川が南流し、西方から奥羽山脈の和賀岳(1440m)に源を発した和賀川が東流して同市黒沢尻町の南東付近で北上川に合流する。同川は全長75kmを有し、上流から横川、本内川、下前川、左草川、鬼ヶ瀬川、南本内川、北本内川、鈴鴨川、尻平川、夏油川等13河川を支流とする当地最大の1級河川である。北上盆地の西縁部は急峻な山地からの出入口にあたり、急激に成長した奥羽山脈からの和賀川本流とその支流によって大量の土砂が供給され、多くの扇状地が形成されている。

北上市はこれらの扇状地が開析されてできた段丘上に広がっており、それらの段丘は高位から西根段丘、村崎野段丘、金ヶ崎段丘に分類されており、西根段丘はほとんどは奥羽山脈と北上山地の山麓部に分布している。村崎野段丘は花巻市飯豊・中笹間、北上市村崎野・相去・煤孫に分布し、村崎野浮石を含む火山灰が覆っている。金ヶ崎段丘は扇状地状の地形面のほとんどを占め、北上市付近では最も広く分布しており、本報告2遺跡の所在する山口地区は低位段丘と河岸平野とから成り立っている。

3 周辺の遺跡 (第2図)

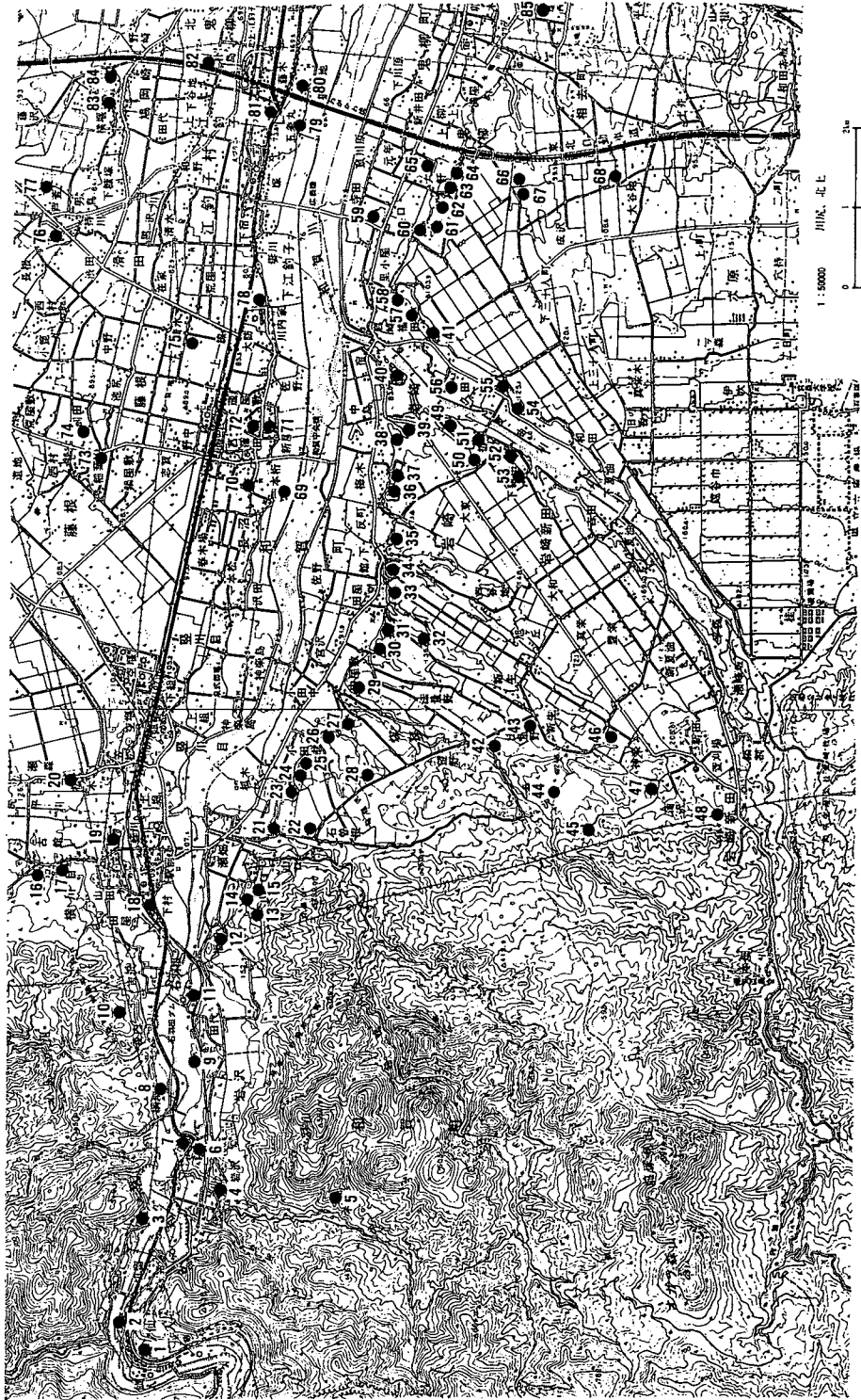
北上市和賀町には120箇所をこえる遺跡が登録されている。和賀川を中心に遺跡の分布をみると、和賀川左岸では、中位段丘やその縁辺部及び開析された小支谷沿い、河岸低地にかけて縄文時代・奈良～平安時代の遺跡の存在が認められる。調査された主な遺跡としては新平遺跡(平安時代の竪穴住居跡、土坑、陥し穴状遺構、縄文土器等)、藤沢遺跡(平安時代の竪穴住居跡、溝跡、縄文土器等)、長沼古墳群、五条丸古墳群、下谷地遺跡(縄文土器、土師器、須恵器等)などがあげられる。和賀川の右岸では丘陵の縁辺部や中位～低位段丘及び開析された支谷に沿って縄文時代～平安時代の遺跡が分布し、段丘の北側縁辺部には深く入り込んだ沢や急峻な崖を利用した城館跡が認められる。調査された主な遺跡は和賀仙人遺跡(旧石器)、下岩沢Ⅰ遺跡(土坑、縄文土器、弥生土器等)、下成沢遺跡(旧石器、縄文土器、土師器等)、上大谷遺跡(平安時代の竪穴住居跡、縄文土器、土師器等)、岩崎城跡(土塁、溝跡、掘立柱建物跡、中世～近世の陶器等)、梅ノ木遺跡(縄文・古代・中世の竪穴住居跡、土坑、縄文土器等)、千手堂遺跡(溝跡、縄文土器等)、羽黒山麓Ⅰ遺跡(時期不明の炭焼窯跡等)、田中館跡(土坑、縄文土器、土師器等)、八幡館跡(平安時代の竪穴住居跡、土坑、陥し穴状遺構等)、石曾根遺跡(縄文時代の竪穴住居跡、土坑等)、本郷遺跡(縄文・平安時代の竪穴住居跡、土坑、陥し穴状遺構等)、岩崎台地遺跡群(平安時代の竪穴住居跡、掘立柱建物跡、方形周溝、土坑、陥し穴状遺構、土師器、須恵器等)、法量野Ⅰ遺跡(縄文土器、土師器、須恵器、陥し穴状遺構、土坑等)、上鬼

柳 I 遺跡（縄文土器、陥し穴状遺構、弥生時代の竪穴住居跡、弥生土器、平安時代の土壙、土師器、須恵器等）、上鬼柳 II 遺跡（縄文土器、陥し穴状遺構、平安時代の竪穴住居跡、土師器等）、上鬼柳 III 遺跡（縄文時代の竪穴住居跡、縄文土器、平安時代の竪穴住居跡、円形周溝、土師器の窯跡等）、月館跡（堀跡、柵列、陥し穴状遺構、縄文土器等）、観音館跡（陥し穴状遺構、時期不明の堀跡、掘立柱建物跡等）、上反町遺跡（縄文土器、土坑、弥生土器、炭窯跡等）、八幡野 II 遺跡（平安時代の竪穴住居跡、土坑、縄文土器等）、上鬼柳 IV 遺跡（縄文土器、土坑、平安時代の竪穴住居跡、畑跡等）、柳上遺跡（縄文時代の竪穴住居跡、土坑、平安時代の竪穴住居跡等）、兵庫館跡（堀跡、柵列、土塁等の中世遺構、弥生時代の墓壇）、梅ノ木台地 II 遺跡（弥生土器、平安時代の竪穴住居跡等）、林崎館跡（縄文時代の竪穴住居跡、土壙等）、中屋敷遺跡（弥生時代の土壙群、弥生土器等）などがあげられる。

本報告 2 遺跡の所在する山口地区には既述の八幡野 II 遺跡・田中館跡・千手堂遺跡・羽黒山麓 I 遺跡・羽黒山麓 II 遺跡の他に、田代遺跡（集落跡、縄文晩期の土器、石器等）、福田塚（塚）、福田遺跡（散布地、縄文中期～晩期の土器、石器）、馬場館跡（中世の城跡）、新田真平遺跡（弥生土器等）などがある。

表1 周辺の遺跡一覧表

番号	遺跡名	種別	遺構・遺物	所在地	番号	遺跡名	種別	遺構・遺物	所在地
1	和賀仙人	散布地	旧石器	仙人	44	代官森 I	散布地	縄文土器、石器	岩崎新田
2	切留 I	散布地	縄文土器(中・後期)	仙人	45	代官森 II	散布地	土坑、石器	岩崎新田
3	人当 I	散布地	縄文土器(中期)、石器	仙人	46	神 桑	散布地	縄文土器、石器	岩崎新田
4	法ヶ松 I	散布地	縄文土器、石器	岩沢	47	蒲 沢	散布地	縄文土器	岩崎新田
5	水 沢 館	館 跡	中世	岩沢	48	水 神	散布地	縄文土器、石器	岩崎新田
6	岩 沢 I	散布地	縄文土器(後・晩期)	岩沢	49	七 折 館	館 跡	中世	岩崎
7	下岩沢 I	集落跡	土坑、縄文土器、弥生土器	岩沢	50	花曾根上	集落跡	縄文土器、土師器、須恵器	岩崎
8	鳥谷森	散布地	縄文土器(晩期)石器	横川目	51	七 折	集落跡	縄文土器、石器、紡錘車	岩崎
9	岩 沢 館	館 跡	縄文土器、陶器	下仙人	52	花曾根	集落跡	須恵器	岩崎
10	愛宕山	散布地	縄文土器、石器	横川目	53	新 田 I	散布地	石碑、土師器、須恵器	岩崎
11	田 代	集落跡	縄文土器(晩期)石器	山口	54	八 天 坂	散布地	土師器、須恵器	岩崎
12	福 田	散布地	縄文土器(中・晩期)石器	山口	55	久 田 I	散布地	土師器、須恵器	岩崎
13	馬場館	館 跡	中世	山口	56	寺 村	散布地	縄文土器、土師器	岩崎
14	福田塚	塚		山口	57	小 寺	散布地	土師器、須恵器	岩崎
15	山口館	館 跡	中世	山口	58	小 平	散布地	縄文土器、土師器、須恵器	岩崎
16	八 幡 館	館 跡	縄文土器(晩期)弥生土器石器	横川目	59	里 小 屋	散布地	土師器、須恵器	岩崎
					60	上 鬼 柳 I	集落跡	弥生竪穴住居跡、土師器	上鬼柳
17	館 森	散布地	縄文土器(中・後期)石器	横川目	61	上 鬼 柳 II	集落跡	竪穴住居跡(平安)	上鬼柳
					62	上 鬼 柳 III	集落跡	竪穴住居跡(縄文平安) 掘立柱建物跡土師器窯跡	上鬼柳
18	大 橋	散布地	縄文晩期注口土器、石器	横川目	63	上 鬼 柳 IV	集落跡	土坑(縄文)竪穴住居跡 (平安)畑跡(平安)	上鬼柳
20	瀬の森古墳群	古墳群	古銭、人骨	横川目	64	柳 上	集落跡	縄文土器、竪穴住居跡 (平安、縄文)	鬼柳
21	田 中 館	館 跡	土師器、石器	山口					
22	八 幡 野 I	散布地	縄文土器	煤孫	65	六 軒	散布地	縄文土器(晩期)	鬼柳
23	八 幡 野 II	散布地	縄文土器、土師器、須恵器	山口	66	下 成 沢 I	散布地	縄文土器、土師器、須恵器	成沢
24	八 幡 館	館跡散布地	縄文土器、中世	山口	67	成 沢	集落跡	土師器、須恵器	成沢
25	月 館	館跡散布地	掘、土壘、磁器縄文土器	煤孫	68	大 谷 地	集落跡	縄文土器	相去
26	石 曾 根	集落跡	竪穴住居跡、縄文土器、石器、弥生土器、土師器	煤孫	69	葛蒲田古墳群	古墳群	土器、蕨手刀	長沼
					70	長沼古墳群	古墳群	蕨手刀、勾玉、切子玉	長沼
					71	念 仏 車	散布地	縄文土器、弥生土器	長沼
27	本 郷	集落跡	(中期)石器、土師器、須恵器	煤孫	72	葦 屋 敷	集落跡	弥生土器、土師器	江釣子村
					73	稻 葉 I	散布地	土師器、須恵器	藤根
28	荒 屋 沢	散布地	縄文晩期壺	煤孫	74	蓮 見 館	館 跡	縄文土器、土師器、須恵器	藤根
29	林 崎 館	館 跡	縄文土器、中世	煤孫	75	長 滑 水 I	散布地	縄文土器(前期末)土師器	藤根
30	中 屋 敷	散布地	土器、土師器	煤孫	76	新 平	駅家跡	縄文、弥生土器、土師器	江釣子
31	法 量 野 I	散布地	石器	煤孫	77	芦 萱	集落跡	縄文土器、土師器、須恵器	江釣子
32	法 量 野 II	散布地	縄文土器、石器	煤孫	78	下江釣子羽場	集落跡	土師器	江釣子
33	煤 孫	集落跡	竪穴住居跡、縄文土器(中期)土師器、須恵器	煤孫	79	五条丸古墳群	古墳群	土師器	江釣子
					80	猫谷地古墳群	古墳群	蕨手刀、勾玉、切子玉	江釣子
34	観 音 館	館 跡	掘、土壘、須恵器	煤孫	81	本 宿	散布地	縄文土器、土師器	江釣子
35	上 反 町	散布地	縄文土器、弥生土器、石器	煤孫	82	下 谷 地	散布地	平安	相去
					83	鳩岡崎高台	散布地	縄文土器、土師器	江釣子
36	兵 庫 館	散布地	縄文土器剝片石器	岩崎	84	鳩岡崎上の台	散布地	縄文土器、土師器、須恵器	江釣子
37	梅ノ木台地II	集落跡	縄文土器	岩崎					
38	梅ノ木台地I	集落跡	縄文土器	岩崎	85	滝 ノ 沢	集落跡	土坑、縄文土器(中期)	相去
39	岩 崎 城 西	散布地	縄文土器、溝跡、陶器	岩崎					
40	岩 崎 城	館 跡	銅鉄銭、鉄塊、縄文土器	岩崎					
41	岩 崎 台 地	集落跡	竪穴住居跡、土師器、須恵器	岩崎					
42	望 野 I	散布地	縄文土器(中期)、石器	煤孫					
43	望 野 II	集落跡	縄文土器(前後期)旧石器	煤孫					



第2図 周辺の遺跡位置図

III 調査方法と室内整理

1 グリッド設定 (第4・10図)

馬場館遺跡・小吹野遺跡とも、調査日程と調査区に包含されるすべての遺構・遺物の検出を念頭において、東西方向に基準点1～基準点3を設定し、基準点1と基準点3を結んだ調査用基準ラインを基に20m×20mの中区画を設け、さらに各々5m×5mの小グリッドに細分して本調査の基本単位とした。両遺跡の基準点の成果値は次のとおりである。

馬場館遺跡	基準点1	X=-78,500.000m	Y=11,716.000m	H=152.919m
	基準点2	X=-78,500.000m	Y=11,680.000m	H=152.935m
	基準点3	X=-78,500.000m	Y=11,716.000m	H=152.919m
小吹野遺跡	基準点1	X=-78,540.000m	Y=11,300.000m	H=163.617m
	基準点2	X=-78,540.000m	Y=11,260.000m	H=162.580m
	基準点3	X=-78,540.000m	Y=11,220.000m	H=163.207m

2 グリッドの命名

細分されたグリッドの名称は、南北方向にアルファベット、東西方向に数字を用い、大グリッド名(大文字のローマ数字とアルファベット)を小グリッド(小文字の算用数字とアルファベット)に冠してその組み合わせで行った(例II B 1 a、III D 3 b)。

3 粗掘・精査

調査区域内の数箇所にトレンチを入れ、検出面までの深さや層序の確認等遺跡全体の把握に努めた。遺跡に包含されるすべての遺構及び遺物の検出を目的に、原則として人手によって行っただが、立木及び伐採根の多い小吹野遺跡では重機を稼働して表土除去を行い、粗掘段階における効率化を図った。なお重機稼働に際しては、調査員とオペレーターとの二者間で発掘作業員の安全確保や除去層の厚さ、土捨場の確認、小規模遺構の破壊や遺物の散乱の防止等について事前の打ち合わせを行い、稼働時には調査員が立ち会い万全を期した。

4 実測図の作成

基本層序図や観察用土層断面図などは20分の1の縮尺率を基本として作成した。

5 写真撮影

写真撮影はすべて調査員が担当し、遺跡の遠景・近景・調査過程・土層断面・遺物の散布状況・完掘状況等必要に応じてできるだけ多くの状況を把握・記録できるようにした。写真撮影には6×7版（白黒）1台、35mm版カメラ2台（白黒、カラー用）を使用した。なお撮影に際しては、名称・方位・年月日・天候を記した撮影カードを活用し、室内整理段階での混乱の防止に努めた。

6 室内整理

野外調査での実測図の座標・セクションポイントの位置・基準高などの点検、必要に応じた第2原図の作成の後、トレースを行った。

水洗い・注記の後、土器については接合・復元を行った。これらの作業終了後、仕分・登録を行い、本報告記載分については写真撮影－土器及び石器の実測－土器の拓本及び断面図の作成－点検－トレース－点検の順に作業を展開した。

IV 馬場館遺跡

所在地	北上市和賀町山口第18地割51～58
委託者	日本道路公団仙台建設局北上工事事務所
調査面積	5,200m ²
調査期間	平成5年4月13日～6月30日
遺跡番号	ME62-0337
調査略号	BB92
調査担当者	主任文化財専門調査員 高橋正之 期限付専門職員 稲垣雅弘
協力機関	北上市教育委員会

1 遺跡の位置 (第1図)

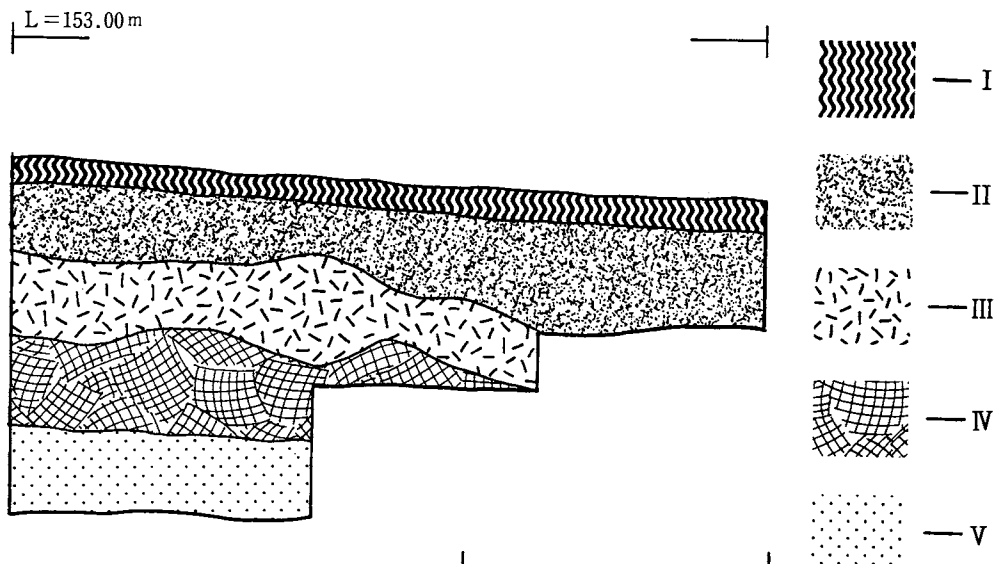
馬場館遺跡は東日本旅客鉄道北上線横川目駅の南西約2.5km付近の和賀川右岸の河岸段丘上に立地している。遺跡の北東約1kmには和賀川が緩やかに東流し、東側には鈴鴨川が北流している。本遺跡の標高は152m程で、周辺には馬場館跡、小吹野遺跡、羽黒山麓Ⅰ遺跡、羽黒山麓Ⅱ遺跡、千手堂遺跡、福田塚等の諸遺跡が隣接している。なお遺跡の現況は牧草地及び山林原野である。

2 基本層序 (第3図)

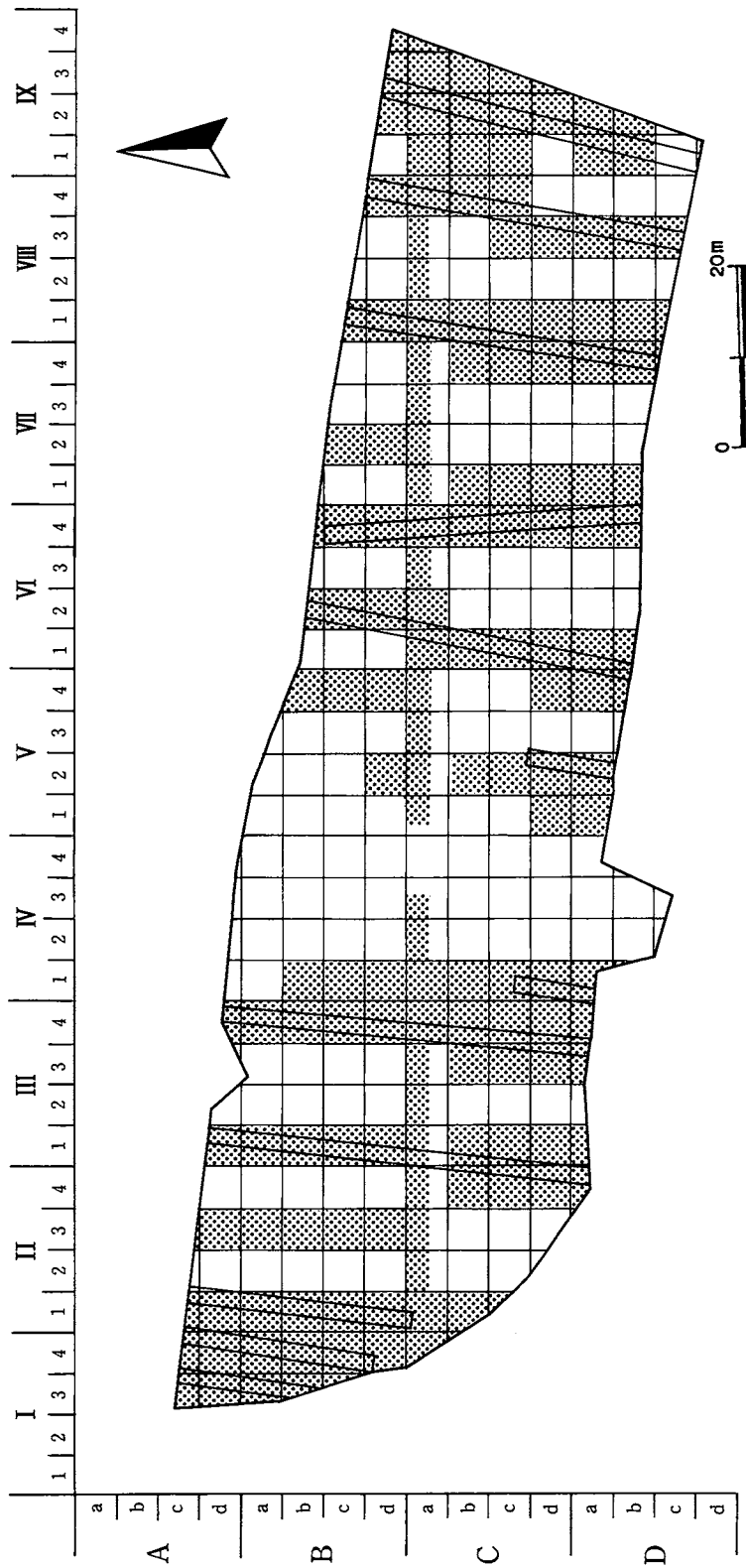
馬場館遺跡の基本層序を概説すると以下のとおりである。

- I層 黒褐色土10YR2/3 表土層。草木根の混入が顕著で、調査区の北西端及び東側で若干の遺物が認められる。層厚20～30cm。
- II層 暗褐色土10YR3/4 軟質で若干粘性有している。層厚10～20cm。
- III層 褐色土 10YR4/6 粘土質で、砂礫の混入が認められる。層厚20～40cm。
- IV層 黄褐色土10YR5/8 砂礫混じりの粘性土。層厚30～40cm。
- V層 明黄褐色土10YR6/8 砂礫層。挙大の風化礫の混入顕著。

調査区域によってはI層とII層の間に攪乱層を挟在させており、調査区の中央から西端部にかけては牧草地造成の際の伐採根跡や地山砂礫層の露出が顕著に認められる。



第3図 馬場館遺跡基本層序



第4図 馬場館遺跡グリッド配置図

3 検出遺構及び遺物

(1) 検出遺構

土器片・石器類の分布が認められる調査区の東端及び西端緩斜面を中心に重点的に精査を行ったが、遺構は検出されなかった。

(2) 出土遺物

遺物は少量の縄文・弥生の土器片及び石器類が出土した。土器はいずれも細片で、摩耗が著しく全体的な器形は把握できなかった。

(土器)

縄文時代後期・晩期、弥生時代の土器が出土しており、記載にあたって縄文後期をI群、晩期をII群、弥生時代の土器をIII群として分類した。

I群土器 (第5図1・2、写真図版7-1・2)

第5図1は細片のため全体的な器形等は把握できなかったが、数条の平行沈線を用いて帯縄文が直線的に展開させ、文様帯を構成しているのが特徴的である。胎土・焼成ともに良好で堅緻な作りで、体部地文は原体RLが施されている。東北地方北部の十腰内I式や大湯式に比定されるものであろう。2は口縁上端が肥厚する鉢形土器の細片で、曲線的な文様帯を構成する沈線に沿って連続する刺突文が展開している。胎土・焼成ともに良好で堅緻な作りである。大迫町立石遺跡第IV群第4類土器、花泉町貝鳥貝塚III群第4類土器に類似している。地文原体はLR横によって施されている。

II群土器 (第5図3・4、写真図版7-3・4)

第5図3は摩耗が激しく、全体的な文様構成等は把握できなかったが、僅かに沈線による平行線化した楕円形文調のモチーフが観察されることから一応晩期末葉大洞A式に相当するものであろう。4は台付鉢形土器の脚部(台部)で、数条の平行沈線を巡らし加飾している。晩期後葉大洞C₂式相当するものであろう。

Ⅲ群土器（第5図5～12、写真図版7-5～18）

第5図7、8は頸部より「く」字状に外反する甕形土器の口縁部破片で、地文は原体RL横回転によって施されている。全体的に脆弱な作りである。5、6は鉢形土器の胴中央部破片で、地文は原体はLR縦回転によって施されている。9、10は無文の頸部位より緩やかに外反する甕形土器の口縁部破片で、口唇部がややめくれ波状様に成形されているのが特徴である。

（石器）

本遺跡出土の石器は土器同様、そのほとんどがI層中からのもので、石鏃・石筥・石匙・打製石斧・大型粗製刃器・礫石器・凹石等が出土している。

石鏃（第6図1、写真図版8-1）

やや凹状の基部を有し、両面ともに入念な細かい剝離加工が施されて全体として二等辺三角形を呈している。

石筥（第6図2、第7図7、写真図版8-3・6）

2は入念な刃面加工によって角度有る半円形状の鋭利な機能刃部を作り出している。7は2に比してやや粗雑な両面加工によった半円形状の機能刃部が作出されている。

石匙（第6図3、写真図版8-2）

3はつまみ部を有する縦形石匙で、嘴状の機能先端部位が入念に両面加工され、全体として半月形を呈している。

剝片石器（第6図4～6、第8図14、写真図版8-4・5・7、9-16）

4は比較的縦長の剝片を素材とし、幅広の先端部位に粗雑な片面加工を施して凹状の機能刃部を作り出している。

5、6は薄手偏平な剝片を素材とし、先端部位に若干の粗雑な片面加工を施して鋭利な機能部を作り出している。

打製石斧（第7図8、第8図13、写真図版8-9、9-12）

8、13はいずれも全体として撥状を呈し、比較的肉厚な剝片を素材とし、粗雑な片面加工によって鈍角な機能刃部を作り出している。

礫石器（第7図9～12、第8図15～17、写真図版9-10・11・13～15）

9、15、16はいずれも肉厚な拳大不整形の礫を素材とし、両面からの粗雑な加工によって鋭い機能刃部を作り出している。10は長楕円形状の礫を素材とし粗雑な片面加工によって半円形状の機能刃部を作り出している。11、12は楕円形礫の先端部位に粗雑な片面加工を施して機能刃部を作り出している。17は西洋梨状の偏平礫を素材とし、粗雑な両面加工によって蛤刃状の

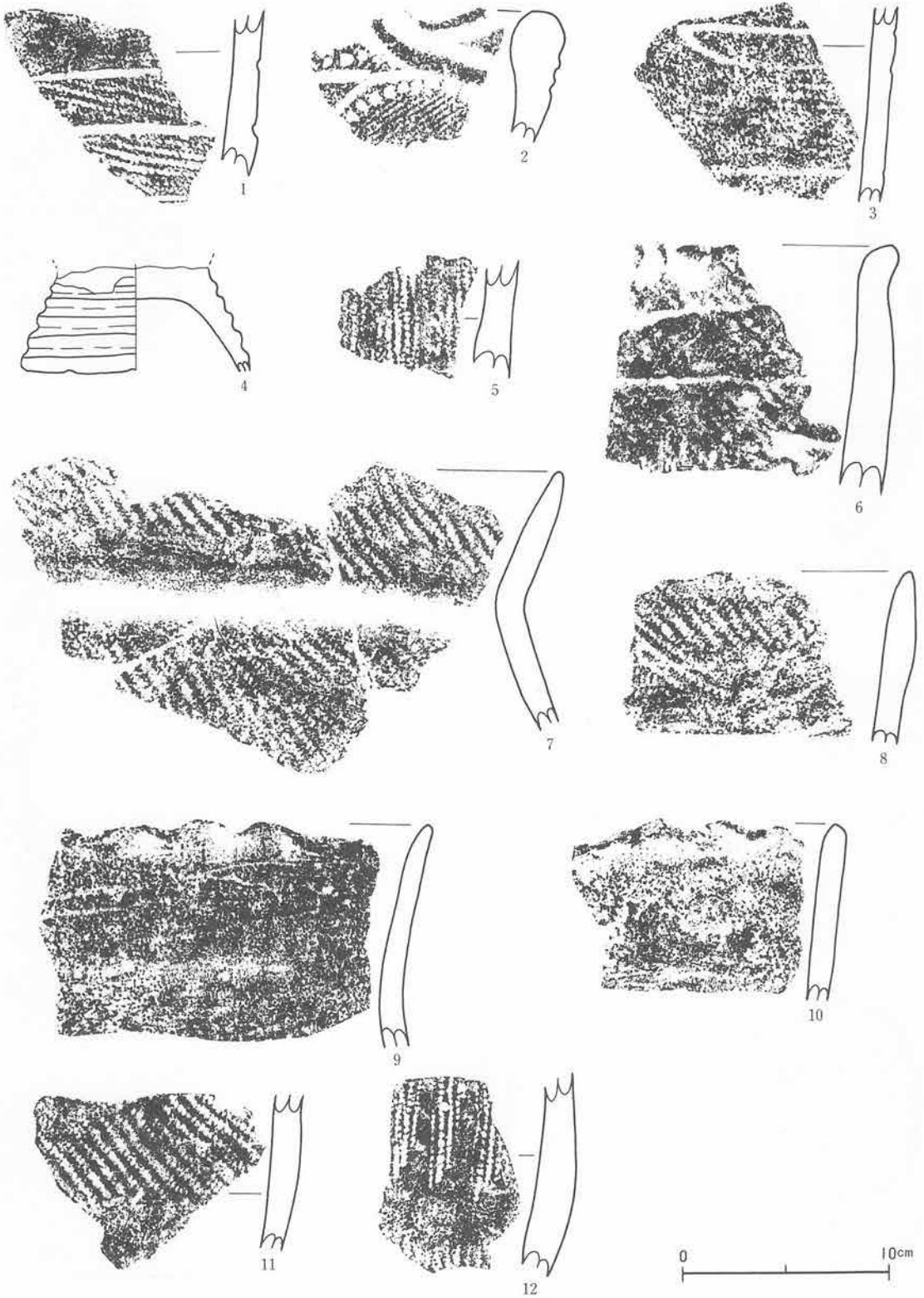
機能部を作り出している。

凹石（第8図18、写真図版9-17）

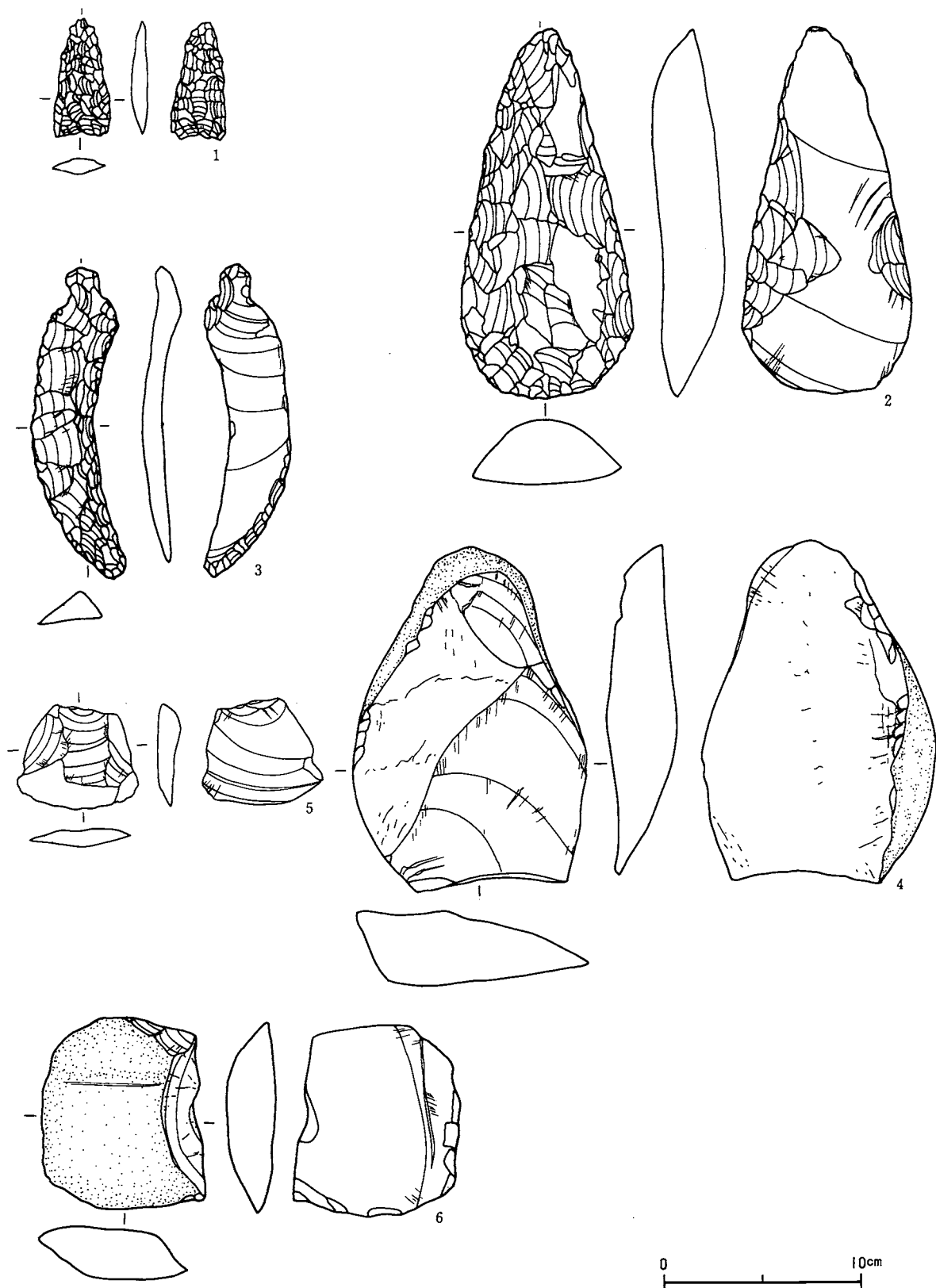
デサイト質凝灰岩の比較的肉厚の楕円形礫を素材とし、片面に彫りの深い痘痕が観察される。

4 まとめ

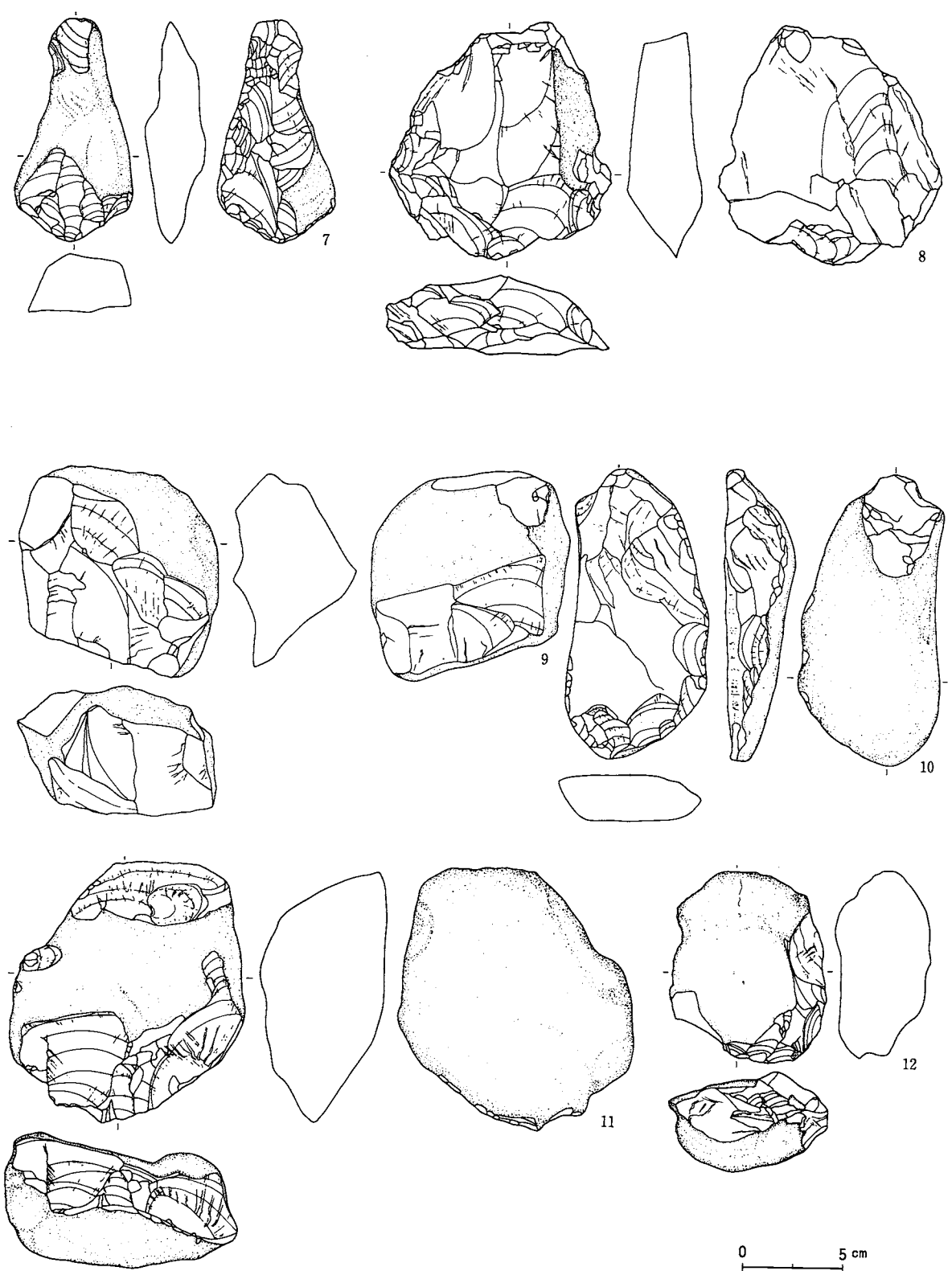
調査の結果、竪穴住居跡等の遺構は検出されず、調査区東側端の高位面及び西側端低位面に僅かに土器片・石器類が分布していることが確認されたにすぎない。出土土器は、縄文土器・弥生土器で、いずれも細片で摩耗がひどく、全体的な器形や文様意匠等が把握できるものはごく少量であるが、時期的には縄文時代後期中葉、晩期後葉～末葉（大洞 C₂式・A 式相当）、弥生時代初頭のものと考えられる。



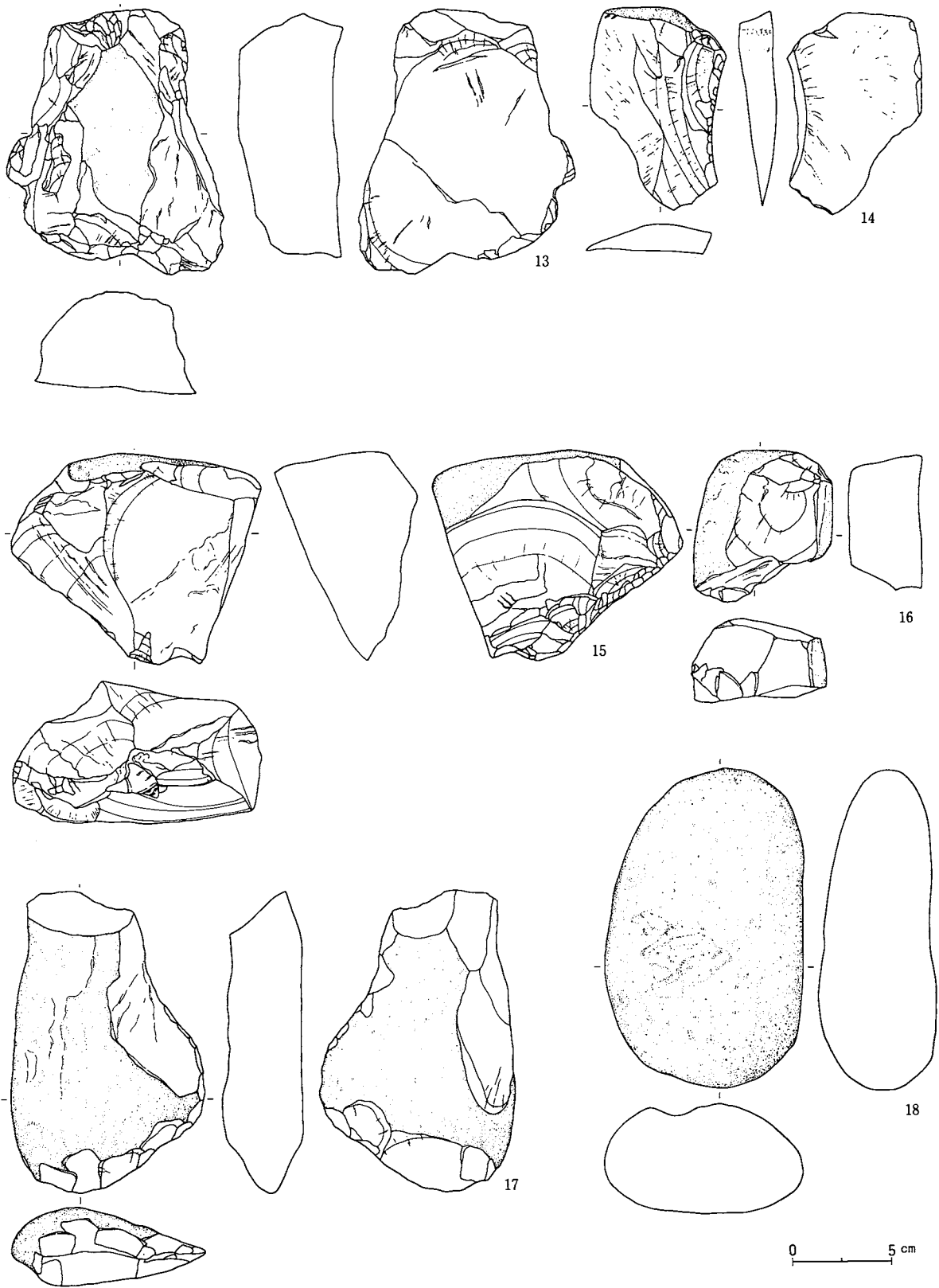
第 5 図 馬場館遺跡出土遺物 (土器)



第6図 馬場館遺跡出土遺物（石器Ⅰ）



第7図 馬場館遺跡出土遺物（石器2）



第8図 馬場館遺跡出土遺物（石器3）

土 器

番号	出土地点	器 種	部 位	文様等の諸特徴	備考
1	IXC2a I層	鉢 形	口縁部	平行沈線による帯状文	
2	VIII B2d I層	鉢 形	口縁部	沈線+刺突文による区画文	
3	IXC2a I層	鉢 形	胴中央部	平行化した沈線区画文	
4	VII C4a I層	台付鉢	台 付	平行沈線文による加飾技法	
5	VIII D4a I層	鉢 形	胴中央部	縄文のみ	
6	VIII D4a I層	甕 形	口縁部	縄文のみ、輪積の痕跡顕著	
7	IXC2d I層	甕 形	口縁部	縄文のみ、頸部位より外反	
8	IXC2d I層	甕 形	口縁部	縄文のみ	
9	IXD1b I層	甕 形	口縁部	口縁部やや小波状を呈する	
10	IXC2c I層	甕 形	口縁部	9と同様、口縁部小波状	
11	VIII C4b I層	甕 形	胴中央部	縄文のみ、7・8と同一個体	
12	IXC2d I層	鉢 形	胴中央部	縄文のみ	

石 器

番号	器 種	出土地点	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石 材
1	石 鍬	IXC3b I層	3.0	1.5	0.4	1.7	珪質凝灰岩
2	石 筥	IXC2b I層	9.2	4.4	1.6	6.5	泥質珪質凝灰岩
3	石 匙	VB2a I層	7.9	2.4	0.7	11.0	泥質珪質凝灰岩
4	剥片石器	IXC2c I層	8.4	5.9	1.8	100	泥質珪質凝灰岩
5	剥片石器	V 22a I層	2.7	3.1	0.6	3.1	珪質泥岩
6	剥片石器	VIII C1c I層	4.9	4.3	1.3	0.9	泥質珪質凝灰岩
7	石 筥	VD2a I層	11.1	5.9	3.0	170	粘板岩
8	打製石斧	VD1a I層	11.8	11.0	4.0	450	泥質珪質凝灰岩
9	礫 石 器	II B3d I層	10.5	10.0	6.5	585	泥質珪質凝灰岩
10	礫 石 器	III C3b I層	14.5	7.1	3.5	325	珪質極細粒凝灰岩
11	礫 石 器	VC2b I層	12.9	11.3	6.3	1100	珪質極細粒凝灰岩
12	礫 石 器	VD1a I層	9.6	7.9	4.6	380	珪質極細粒凝灰岩
13	打製石斧	II B1a I層	13.7	11.0	5.1	750	珪質極細粒凝灰岩
14	剥片石器	VB2a I層	9.9	6.2	1.5	120	粘板岩
15	礫 石 器	VIII C4c I層	10.6	12.6	7.2	890	珪質極細粒凝灰岩
16	礫 石 器	VIII D3c I層	7.7	6.8	4.2	250	珪質極細粒凝灰岩
17	礫 石 器	IXC2d I層	5.2	9.8	3.9	680	粘板岩
18	凹 石	II B1b I層	16.1	10.0	6.0	101	デサイト質凝灰岩

表 2 馬場館遺跡出土遺物観察表

V 小吹野遺跡

所在地	北上市和賀町山口第18地割51-60
委託者	日本道路公団仙台建設局北上工事事務所
調査面積	5,400m ²
調査期間	平成5年7月1日～9月14日
遺跡番号	ME62-0304
調査略号	KB92
調査担当者	主任文化財専門調査員 高橋正之 期限付専門職員 稲垣雅弘
協力機関	北上市教育委員会

1 遺跡の位置

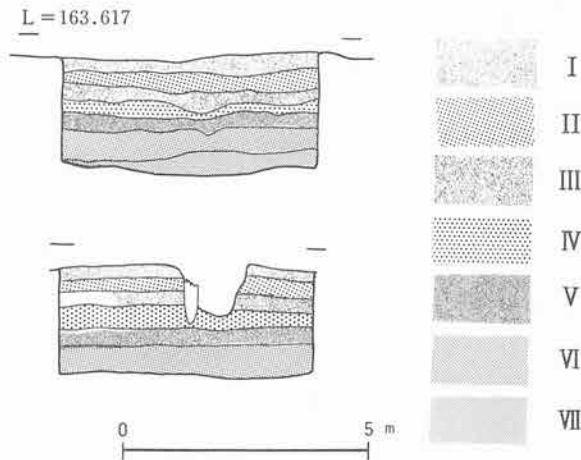
小吹野遺跡は東日本旅客鉄道北上線横川目駅の南西約3km付近の和賀川右岸の河岸段丘上に立地している。遺跡の北東約1kmには和賀川が緩やかに東流し、西側には小吹野沢が急峻な崖を形成している。本遺跡の標高は162m程で、周辺には馬場館跡、田代遺跡、馬場館遺跡、羽黒山麓I遺跡、羽黒山麓II遺跡、千手堂遺跡、福田塚等の諸遺跡が隣接している。なお遺跡の現況は沢地及び山林原野である。

2 基本層序 (第9図)

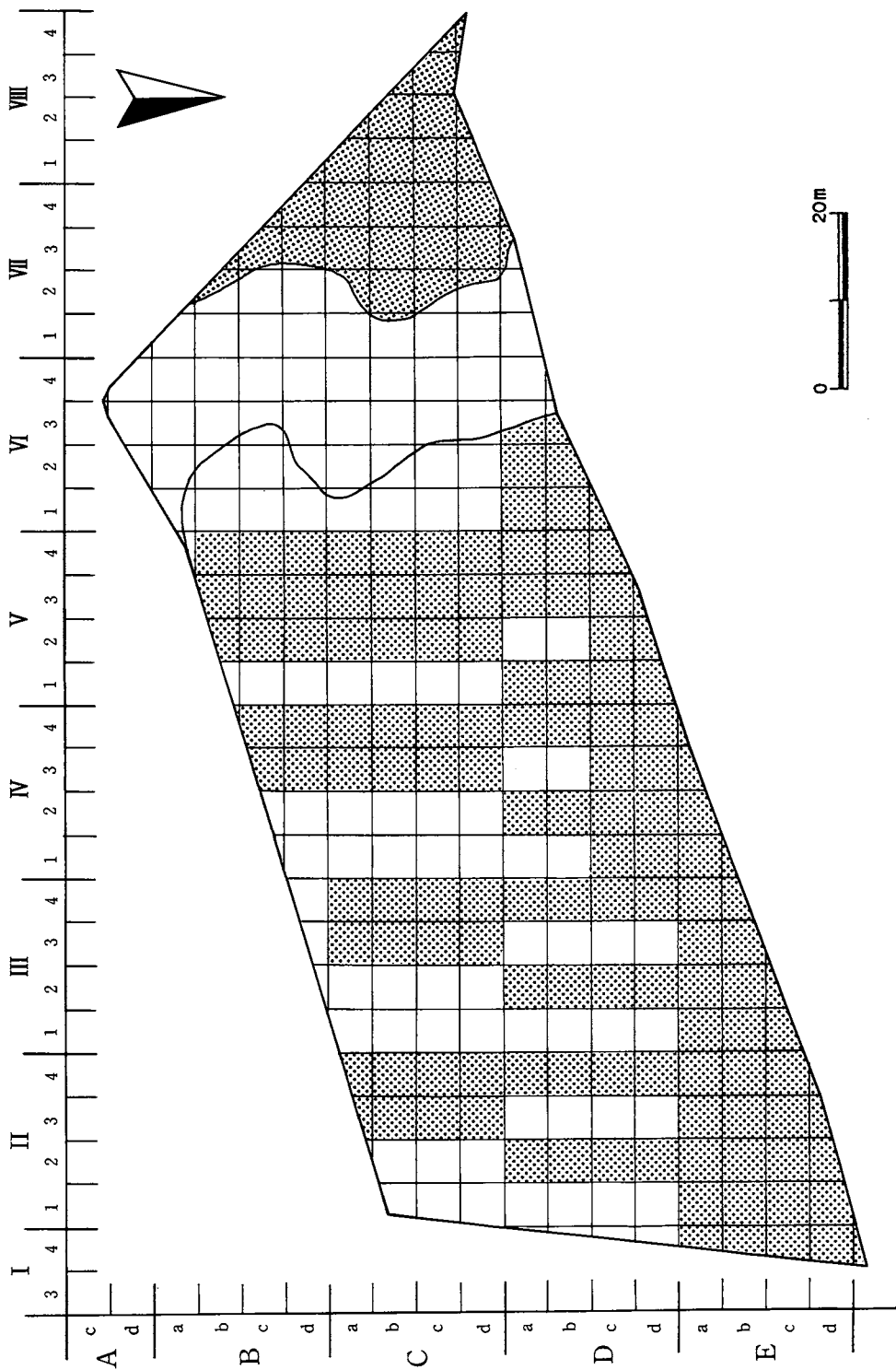
小吹野遺跡の基本層序を概説すると以下のとおりである。

- | | | |
|------|----------------|---|
| I層 | 黒褐色土10YR2/3 | 表土層。草木根の混入が顕著で、調査区の北西端及び東側で若干の遺物が認められる。層厚30~40cm。 |
| II層 | 暗褐色土10YR4/3 | 軟質で若干粘性有している。層厚20~30cm。 |
| III層 | にぶい褐色土10YR6/3 | 粘土質で、小礫の混入が認められる。層厚20~40cm。 |
| IV層 | 黄橙色土10YR7/8 | 砂礫混じりの粘性土。層厚30~40cm。 |
| V層 | 明黄褐色土10YR6/8 | 砂礫層。拳大の風化礫の混入顕著。 |
| VI層 | にぶい黄橙色土10YR7/3 | 砂礫混じりの粘性土。湿性有り。 |
| VII層 | 灰黄褐色土10YR6/2 | 小礫混じりの粘性土。湿性有り。 |

調査区域によってはI層とII層の間に攪乱層を挟在させており、調査区の東端から中央部にかけては伐採根跡や地山砂礫層の露出が顕著に認められる。



第9図 小吹野遺跡基本層序



第10図 小吹野遺跡グリッド配置図

3 検出遺構及び遺物

(1) 検出遺構

土器片・石器類の分布が比較的認められる調査区の西端及び中央緩斜面を中心に重点的に精査を行ったが、遺構は検出されなかった。

(2) 出土遺物

遺物は縄文時代中期・晩期の土器片及び石器類が少量で、特に土器類はいずれも細片で摩耗が著しく、全体的な器形等は把握できなかった。なお遺物はいずれも I 層中からの出土である。

(土器)

縄文時代中期・晩期の土器が出土しており、記載にあたって縄文中期を I 群、晩期の土器を II 群として分類した。

I 群土器 (第11図 1・2、写真図版10-1・2)

第11図 1 は細片のため全体的な器形等は把握できなかったが、沈線と磨消縄文を用いて装飾文様帯を構成しているのが特徴的である。胎土・焼成ともに不良で脆弱な作りである。2 は沈線と隆帯及び磨消の併用によって装飾文様帯を構成している。その加飾技法の諸特徴等から中期大木10式相当のものであろう。

II 群土器 (第11図 4～10、写真図版10-5～11)

第11図 4 は頸部位より「く」字状に外反する鉢形土器の口縁部破片で、頸部を巡る二条一組の平行沈線によって三叉状入組文の口縁部文様帯を画している。胎土・焼成ともに良好で堅緻な作りである。その装飾技法などから晩期前葉大洞 B 式に比定されよう。5 は平行沈線間に齒列様の簡略化された羊歯状文を装飾文様帯とする口縁部破片である。胎土・焼成ともに不良で脆弱な作りである。晩期前葉大洞 BC 式に比定されるものであろう。6～9 は口唇部に刻目による鋸歯状の小波状口縁を有し、頸部を巡る数条の沈線間に小円形刺突文が配されているのが特徴である。晩期後葉大洞 C₂ 式に比定されるものであろう。11、12は無文研磨の土器で、細片のため全体的な器形等は把握できなかった。

(石器)

本遺跡出土の石器は土器同様、そのほとんどがI層中からのもので、石篋・磨製石斧・打製石斧・礫石器・石皿・削搔器的剝片石器等が出土している。

石篋 (第12図1、写真図版11-1)

1は入念な両面加工によって角度有る幅広の鋭利な機能刃部を作り出している。

剝片石器 (第12図2～9、第13図13、第14図16～20、写真図版11-2～9、13-13～15、14-17～20)

2～5は比較的縦長薄手の剝片を素材とし、先端部位に粗雑な両面加工を施して嘴状の鋭い機能刃部を作り出している。6～8は比較的縦長薄手の剝片を素材とし、両側及び先端部位に粗雑な片面加工を施し、角度有る幅広の機能刃部を作り出している。17、18はやや不整形に近い薄手の小剝片を素材とし、直線的な三側辺に鋭利な機能刃部を作り出している。7、13、16はいずれも粗雑な片面加工によって抉入部を有し、おそらく削器的機能を果たしたものであろう。

磨製石斧 (第13図15、写真図版12-13)

15は基部を破損しているが、蛤刃状の鋭い刃部を有する定角式の磨製石斧である。

打製石斧 (第13図14、写真図版12-16)

14は比較的肉厚の縦長剝片の両面に粗雑な片面加工を施して鈍い機能刃部を作り出し、全体として短冊状を呈している。

礫石器 (第13図10～12、写真図版12-10・11)

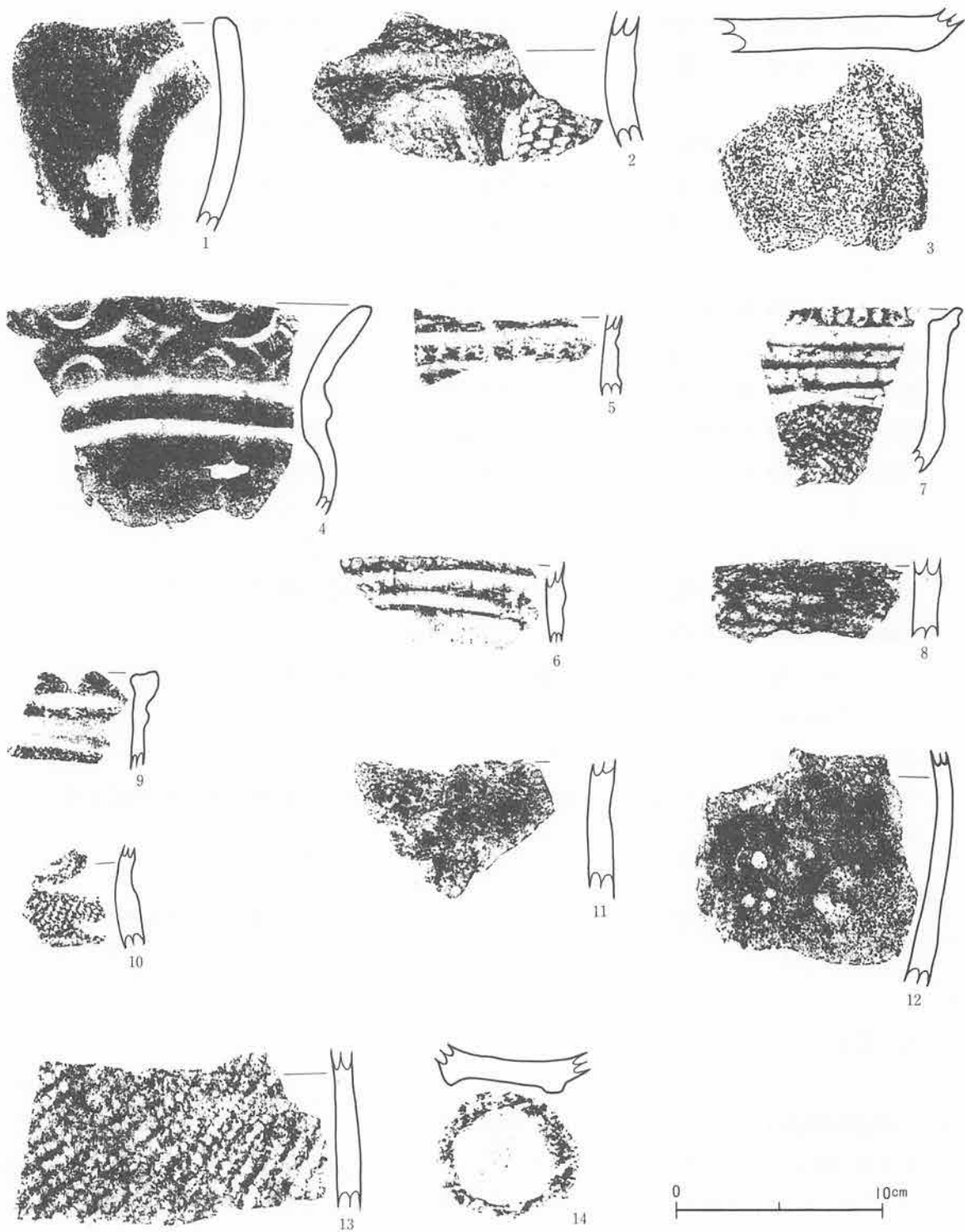
いずれも粗雑な両面加工によって角度ある鋭い機能刃部が作り出され、片面に大きく礫面を残している。

石皿 (第14図21～24)

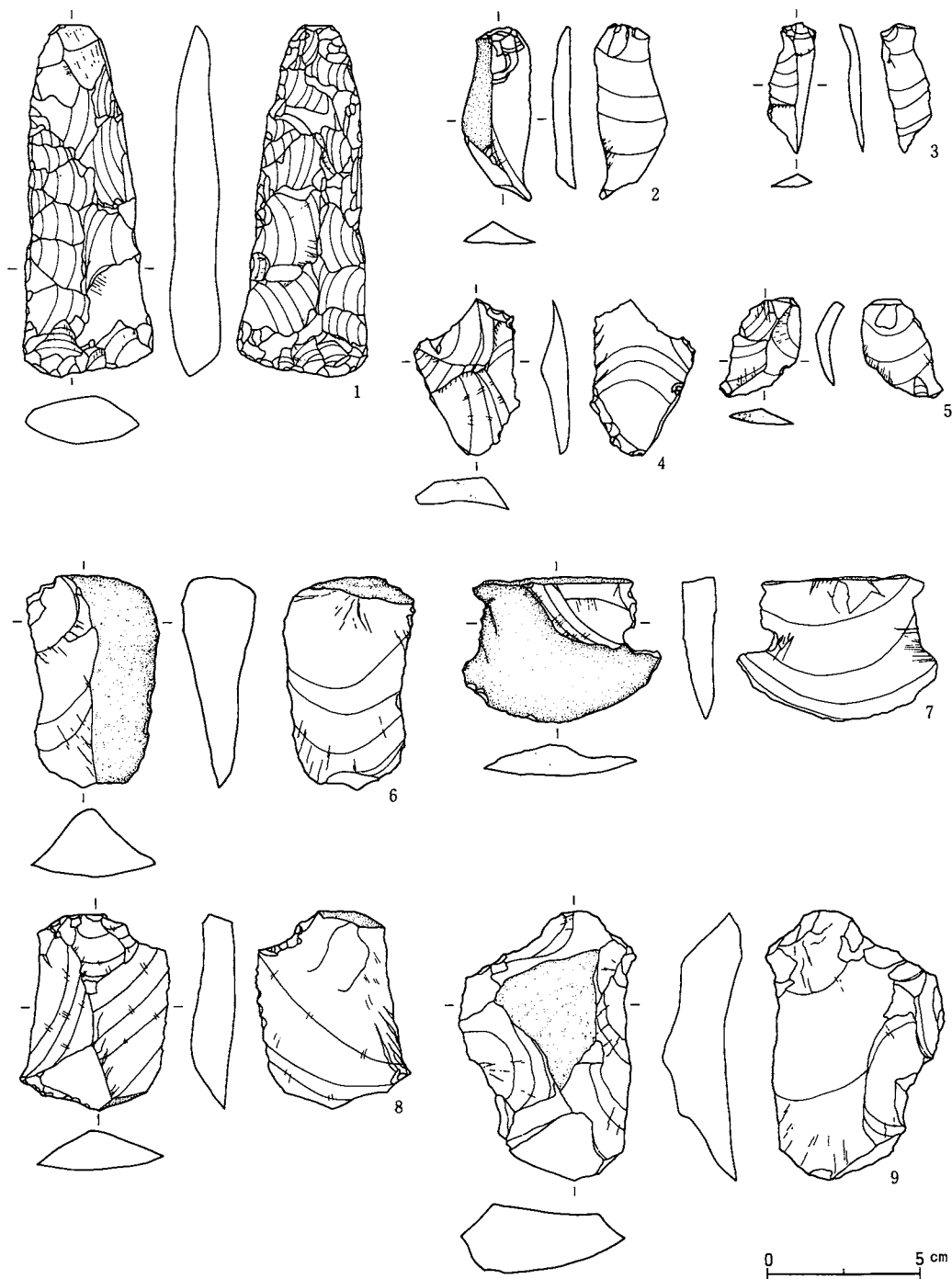
いずれも縁取りや脚部といった整形加工痕は認められず、全体的に平坦で滑らかな器表面を呈している。

4 まとめ

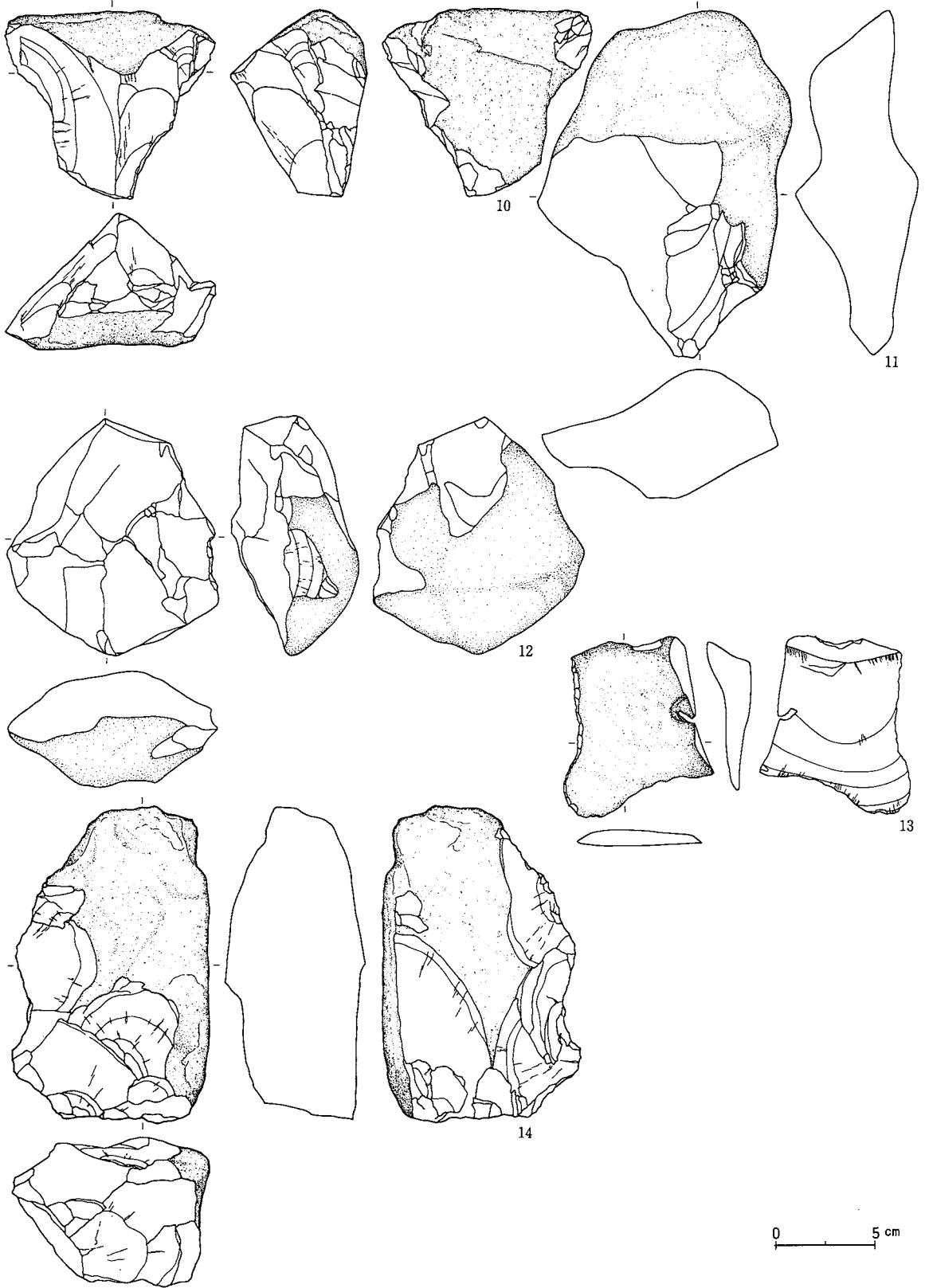
馬場館遺跡同様、堅穴住居跡等の遺構は検出されず、調査区中央低位面及び西側端高位面から少量の縄文土器・石器類が確認されたにすぎない。出土土器は時期的には縄文時代中期末葉(大木10式相当)、晩期前葉(大洞B式・BC式)、後葉(大洞C₂式相当)のものと考えられるが、摩耗・破片のものが多く、全体的な器形等は把握できなかった。



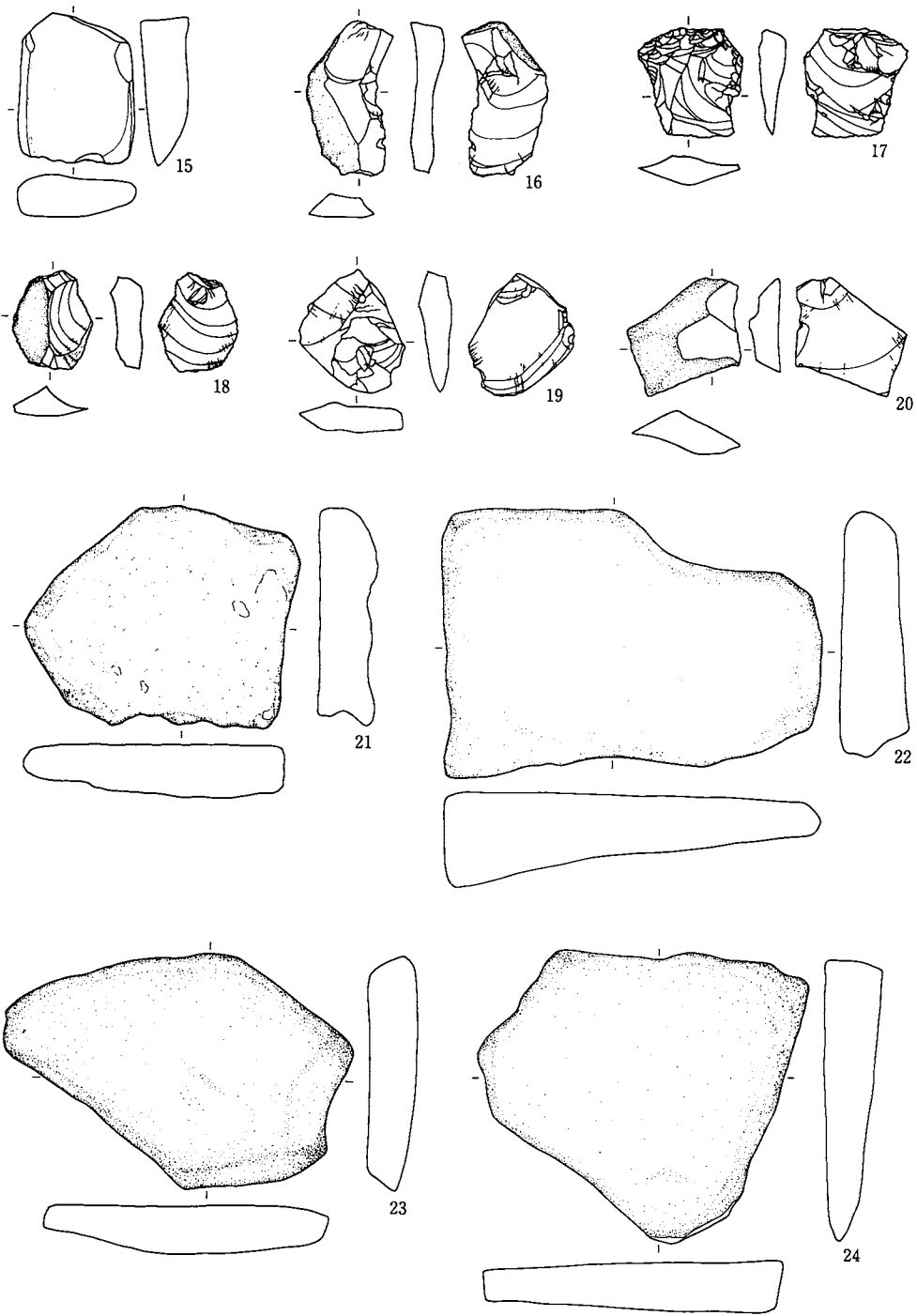
第11図 小吹野遺跡出土遺物（土器）



第12図 小吹野遺跡出土遺物（石器Ⅰ）



第13図 小吹野遺跡出土遺物（石器2）



21~24 2/3

0 5 cm

第14図 小吹野遺跡出土遺物（石器3）

土 器

番号	出土地点	器 種	部 位	文様等の諸特徴	備考
1	II B3d I 層	深鉢形	口縁部	沈線+磨消による区画文	
2	VID2a I 層	深鉢形	口縁部	隆沈線+磨消による区画文	
3	VD4c I 層	鉢 形	胴 部	無文研磨	
4	III E3a I 層	鉢 形	口縁部	沈線による三叉状入組文	
5	VD4b I 層	鉢 形	口縁部	齒列文調の羊歯状文	
6	VII B3d I 層	鉢 形	口縁部	平行沈線文+刺突文	
7	VD4c I 層	鉢 形	口縁部	平行沈線文+刺突文	
8	VD4c I 層	鉢 形	胴 部	地文(単節斜縄文)のみ	
9	VII B3d I 層	鉢 形	口縁部	平行沈線文+刺突文	
10	VII B3d I 層	鉢 形	口縁部	沈線+磨消縄文技法	
11	VC2a I 層	鉢 形	胴 部	無文研磨	
12	VC2a I 層	鉢 形	胴 部	無文研磨	
13	III E3b I 層	深鉢形	胴 部	地文(単節斜縄文)のみ	
14	VIII C2b	鉢 形	底 部	若干上底風に整形	

石 器

番号	器 種	出土地点	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石 材
1	石 筥	VID2b I 層	11.5	4.3	1.5	7.5	流紋岩質凝灰岩
2	剝片石器	VID2b I 層	5.8	2.3	6.8	10.0	凝灰質硬質泥岩
3	剝片石器	IVD2c I 層	4.2	1.3	0.4	3.0	凝灰質硬質泥岩
4	剝片石器	VD3a I 層	5.1	3.3	0.9	15	凝灰質硬質泥岩
5	剝片石器	VD3b I 層	3.2	2.6	0.9	5	凝灰質硬質泥岩
6	剝片石器	VID2a I 層	4.3	3.4	1.3	20	泥質珪質凝灰岩
7	剝片石器	IVD2d I 層	4.8	6.3	1.1	35	硬質泥岩
8	剝片石器	VIII C3c I 層	6.4	4.3	1.3	29	硬質泥岩
9	剝片石器	VID2b I 層	8.8	5.8	2.3	99	凝灰質硬質泥岩
10	礫 石 器	IVD3b I 層	9.5	10.1	6.8	465	粘板岩
11	礫 石 器	VII C1d I 層	17.4	12.7	6.5	950	流紋岩質凝灰岩
12	礫 石 器	VIII C1c I 層	12.0	10.7	6.4	640	硬質泥岩
13	剝片石器	VID1c I 層	9.0	9.6	2.2	100	流紋質極細粒凝灰岩
14	剝片石器	VII C3c I 層	16.0	10.0	7.6	1230	流紋岩質
15	磨製石斧	VID2b I 層	6.5	5.0	2.0	10.6	安山岩
16	剝片石器	VID2b I 層	6.6	3.7	1.4	26.4	凝灰質硬質泥岩
17	剝片石器	VID1b I 層	4.6	4.4	1.1	25	玉髄
18	剝片石器	VID2a I 層	4.2	3.4	1.4	20	粘板岩
19	剝片石器	VD4b I 層	5.1	4.9	1.4	30	硬質泥岩
20	剝片石器	VD3b I 層	5.0	4.9	1.8	31	流紋岩質凝灰岩
21	石 皿	VD3b I 層	18.8	23.3	5.0	3250	輝石安山岩
22	石 皿	IVD4b I 層	20.0	30.0	4.2	3500	輝石安山岩
23	石 皿	VII C3b I 層	16.5	20.5	5.4	4276	輝石安山岩
24	石 皿	IVD4b I 層	20.0	28.0	4.8	4500	輝石安山岩

表 3 小吹野遺跡遺物観察表

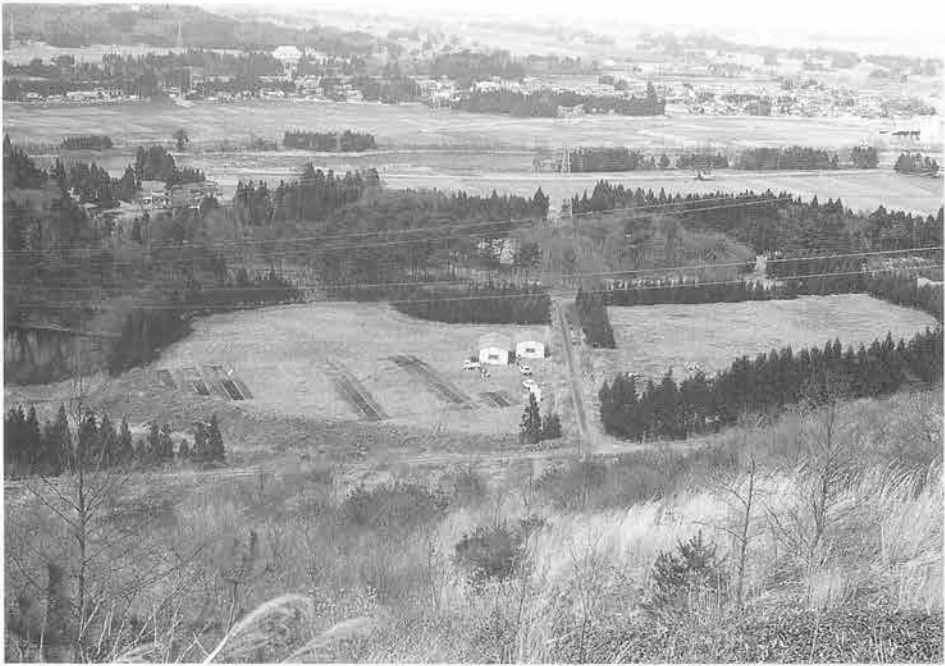
写真図版



写真図版Ⅰ 馬場館遺跡・小吹野遺跡空撮



馬場館遺跡空撮（北方）



馬場館遺跡遠景（南方）

写真図版2 馬場館遺跡空撮・遠景



馬場館遺跡土層断面



馬場館遺跡西側発掘状況

写真図版 3 馬場館遺跡土層断面・西側発掘状況



小吹野遺跡空撮（馬場館遺跡を含む）



小吹野遺跡空撮

写真図版 4 小吹野遺跡空撮



調査区中央発掘状況



調査区西側端発掘状況

写真図版 5 小吹野遺跡発掘状況

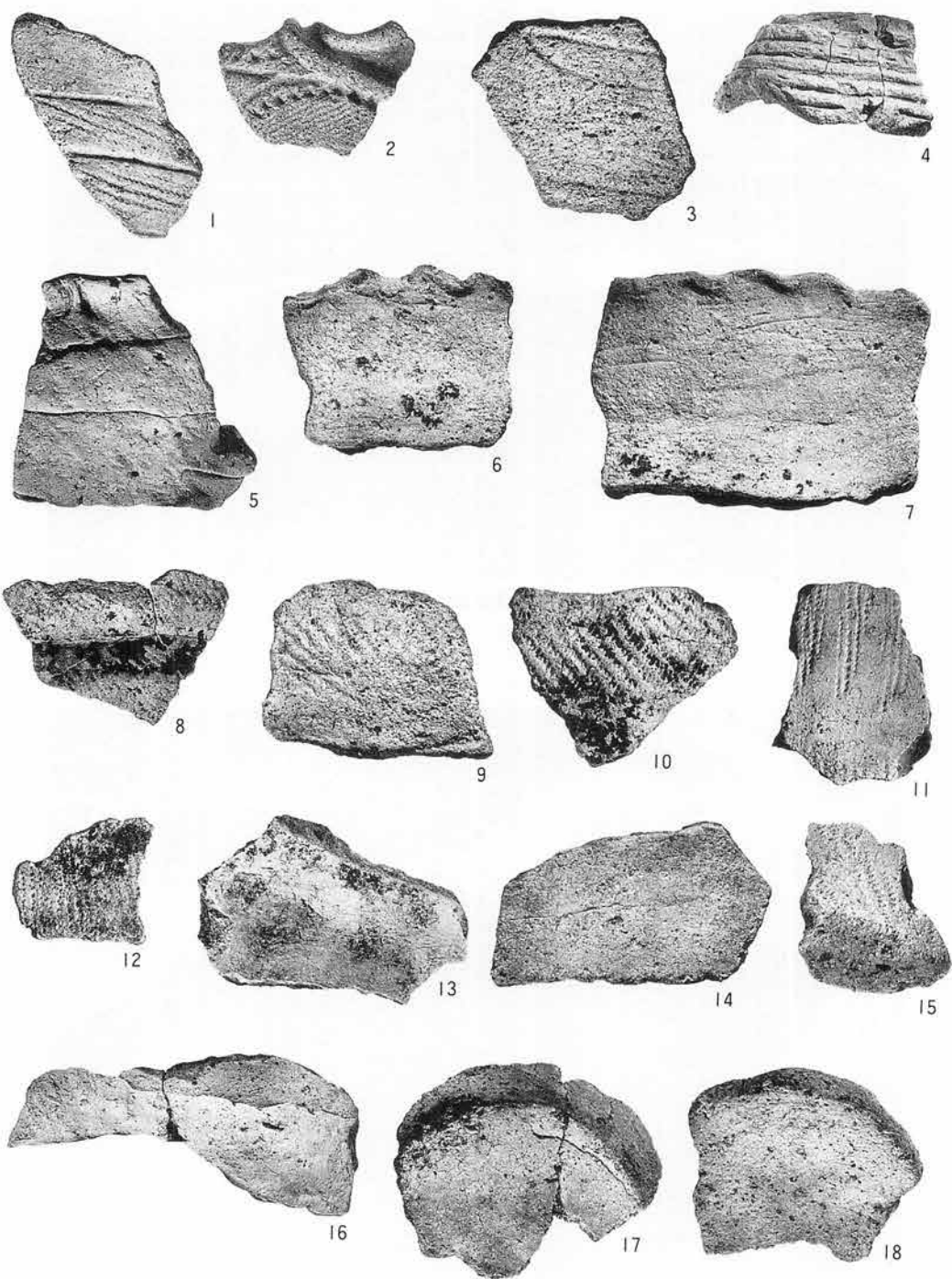


小吹野遺跡遠景（南方）

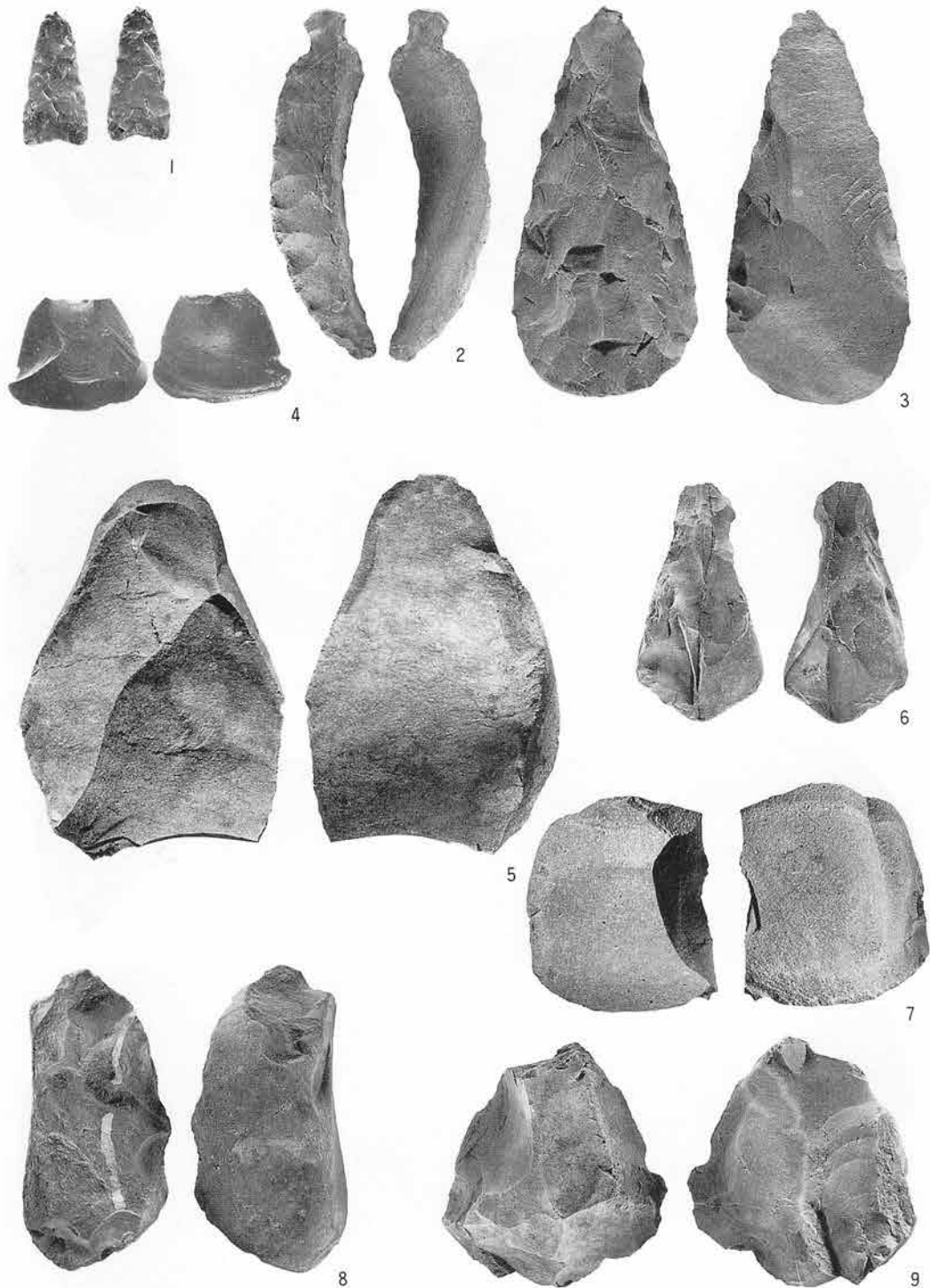


小吹野遺跡土層断面

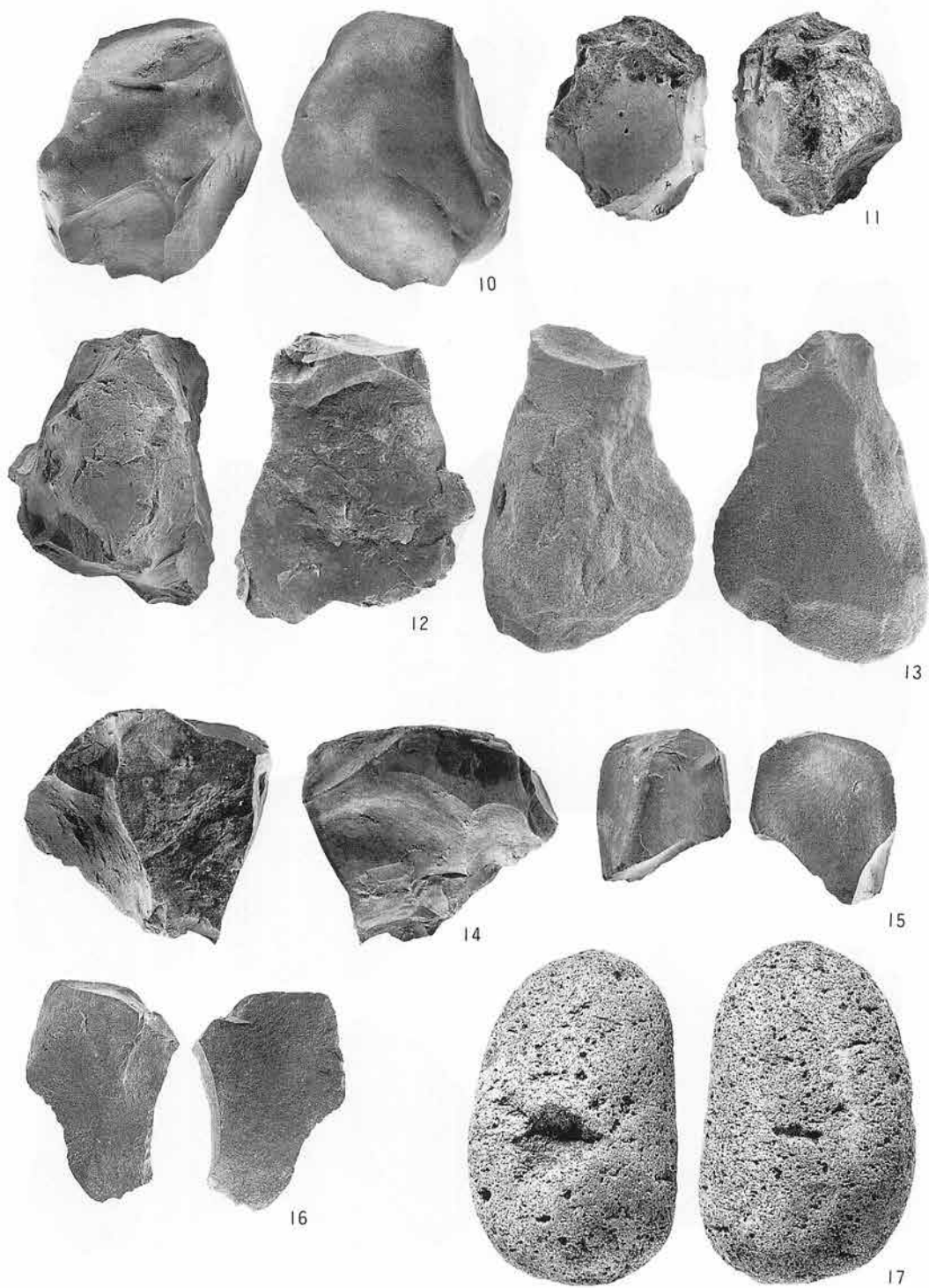
写真図版 6 小吹野遺跡遠景・土層断面



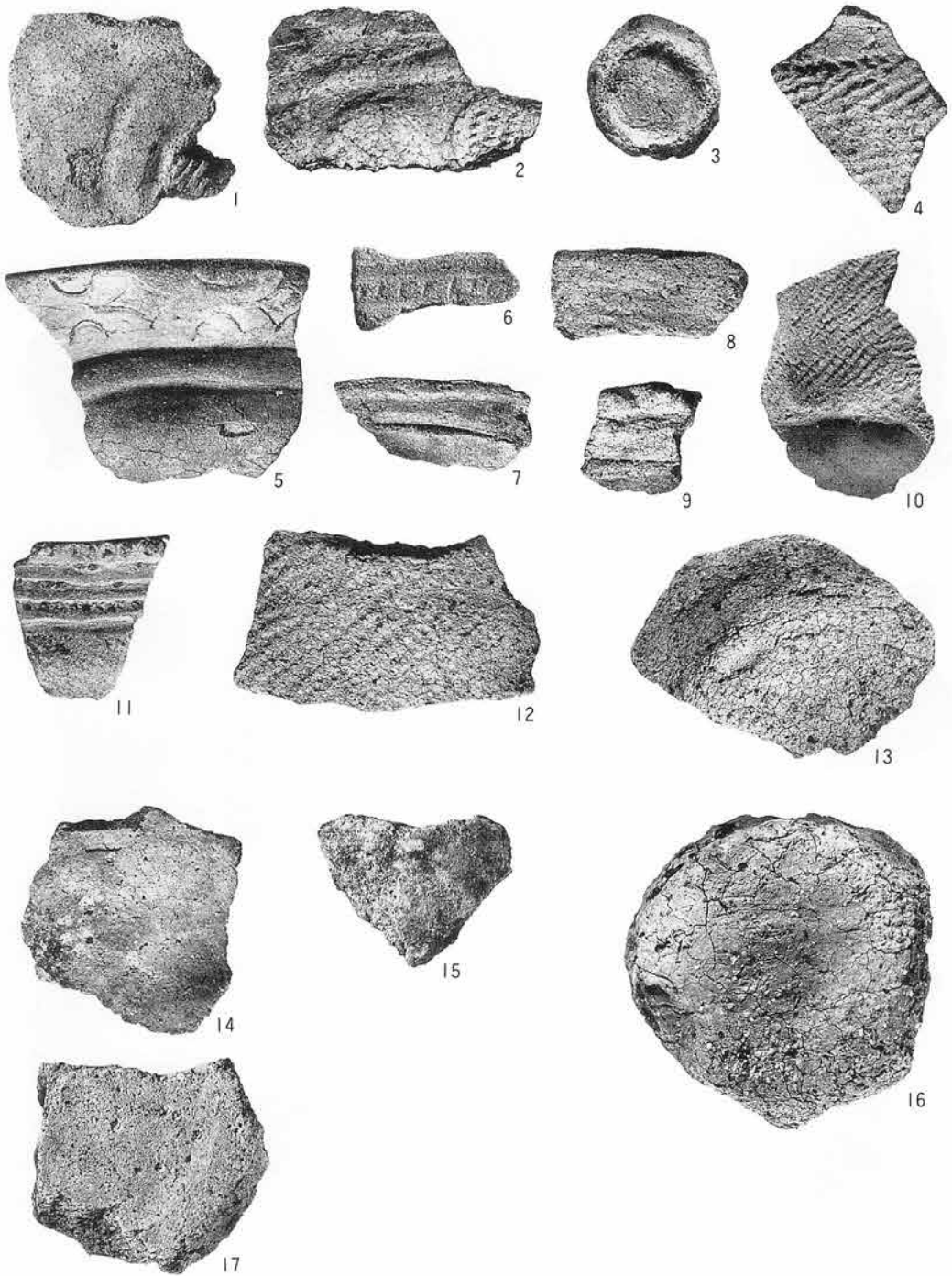
写真図版 7 馬場館遺跡出土遺物（土器）



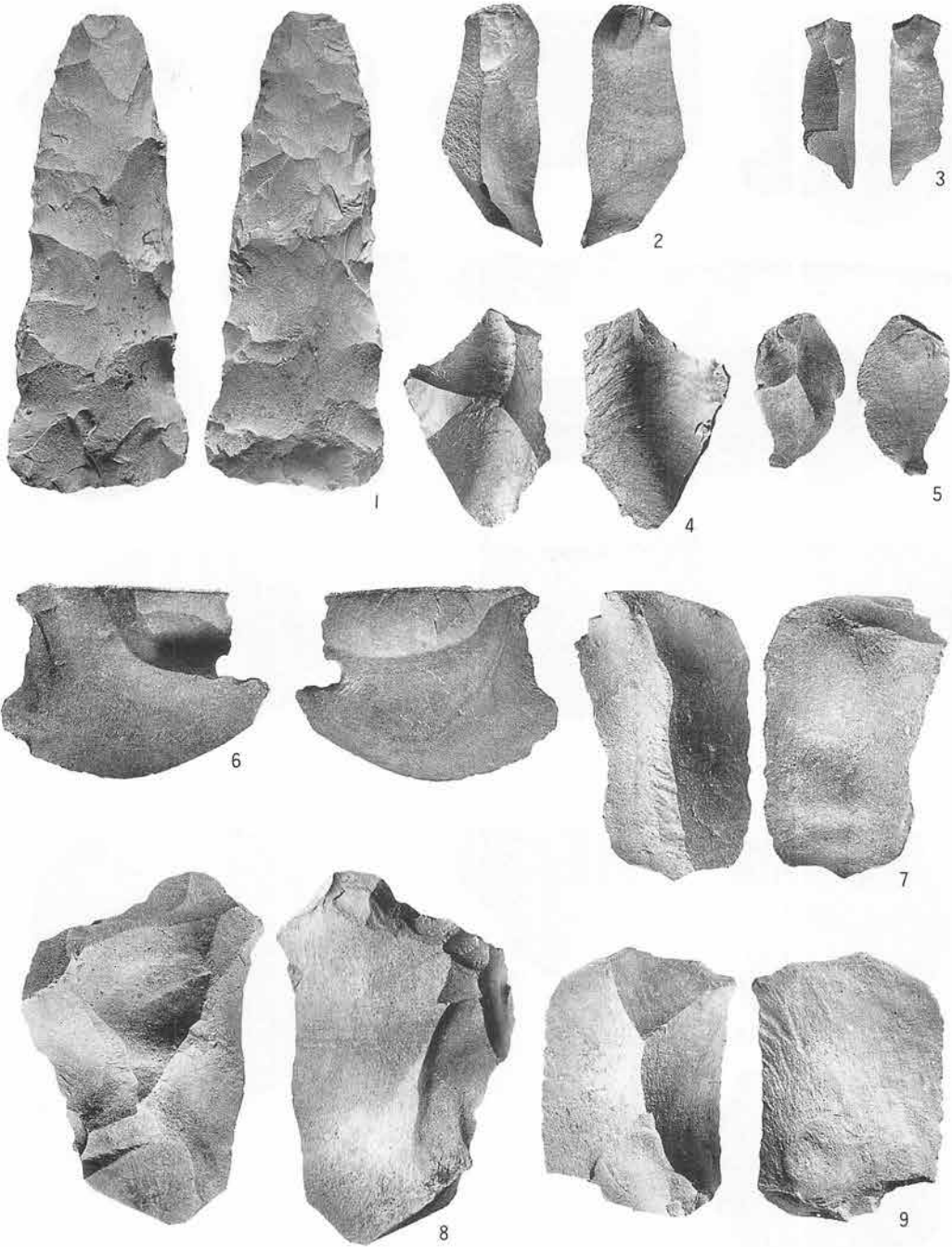
写真図版 8 馬場館遺跡出土遺物（石器 I）



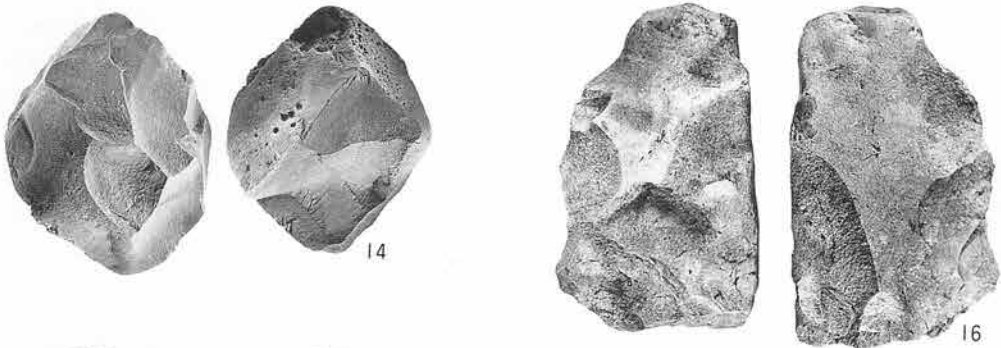
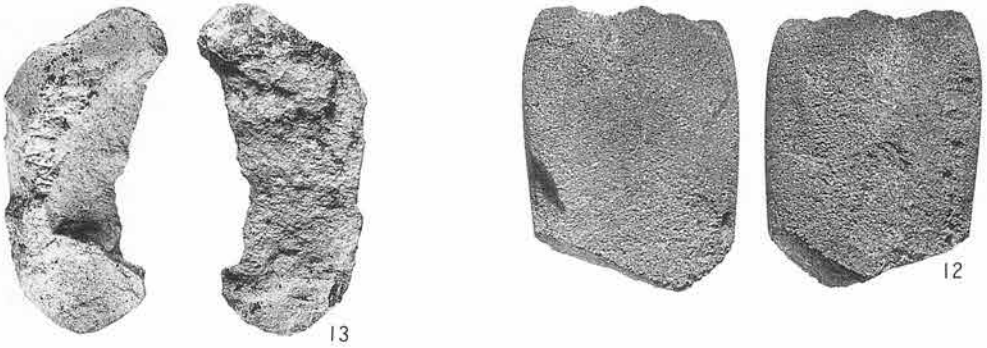
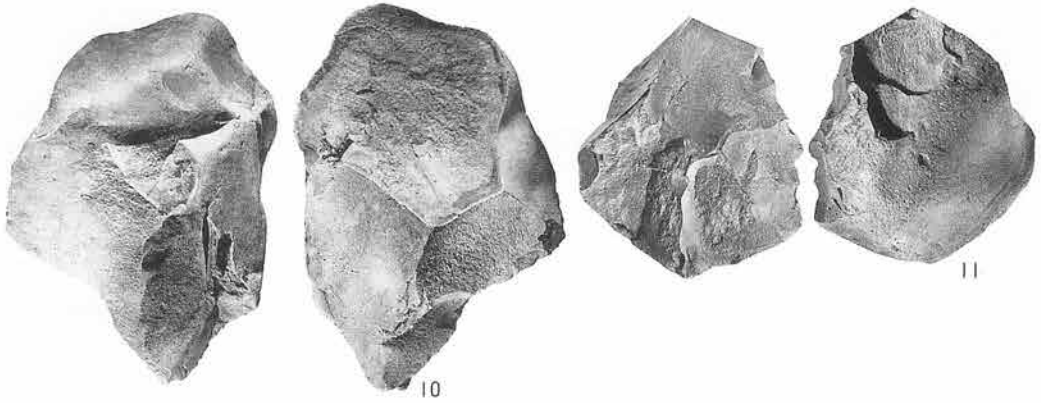
写真図版 9 馬場館遺跡出土遺物 (石器 2)



写真図版10 小吹野遺跡出土遺物（土器）



写真図版II 小吹野遺跡出土遺物（石器I）



写真図版12 小吹野遺跡出土遺物（石器2）

報 告 書 抄 録

ふりがな	ぼぼだていせき こぶきのいせき
書名	馬場館遺跡・小吹野遺跡
副書名	東北横断自動車道秋田線建設関連遺跡発掘調査
巻次	
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第210集
編著者名	高橋正之
編集機関	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
所在地	〒020 岩手県盛岡市下飯岡11-185 TEL 0196-38-9001
発行年月日	西暦 1995年 3月 31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ぼぼだていせき 馬場館遺跡	いわてけんきたかみし 岩手県北上市 わがまちやまぐら 和賀町山口第 18地割51-58	03206		39°17'33"	140°58'04"	19930413～ 19930630	5,200	東北横断自 動車道秋田 線建設関連 遺跡発掘調 査
こぶきのいせき 小吹野遺跡	いわてけんきたかみし 岩手県北上市 わがまちやまぐら 和賀町山口第 18地割51-60	03206		39°17'32"	140°57'51"	19930701～ 19930913	5,400	東北横断自 動車道秋田 線建設関連 遺跡発掘調 査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
馬場館遺跡	散布地	縄文時代後期・晩期・弥生時代	なし	縄文時代後期・晩期・弥生時代の土器片若干と石鏃・石筥・石匙等。	なし
小吹野遺跡	散布地	縄文時代中期・晩期	なし	縄文時代中期と晩期の土器片・石筥・磨製石斧・打製石斧・不定形剝片石器・礫石器等。	なし

財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター職員

所 長	高 橋 重 實		
副 所 長	千 葉 政 男		
[管 理 課]			
管 理 課 長	澤 田 寛	嘱 託	吉 田 十 次
主 事	佐 藤 理	〃	野 崎 他 夫
〃	久保田 幸 恵		
[調 査 課]			
調 査 課 長	鈴 木 惠 治	文 化 財	佐々木 務
課 長 補 佐	三 浦 謙 一	專 門 調 査 員	金 子 昭 彦
〃	高橋 與右衛門	〃	木戸口 俊 子
主 任 文 化 財	菊 池 強 一	〃	大 道 篤 史
專 門 調 査 員	渡 辺 洋 一	〃	阿 部 勝 則
〃	工 藤 利 幸	〃	星 雅 之
〃	中 川 重 紀	〃	羽 柴 直 人
〃	佐々木 清 文	〃	高 木 晃
〃	高 橋 義 介	〃	村 上 拓
〃	中 村 英 俊	〃	高 橋 佐 知 子
〃	酒 井 宗 孝	〃	杉 沢 昭 太 郎
文 化 財	千 葉 孝 雄	〃	溜 浩 二 郎
專 門 調 査 員	菊 池 人 見	期 限 職 員	高 橋 英 樹
〃	伊 東 格	〃	高 佐 藤 修 一
〃	吉 田 充	〃	稻 垣 雅 宏
〃	斎 藤 邦 雄	〃	元 吉 弘 明
〃	高 橋 一 浩	〃	熊 谷 和 明
〃	鎌 田 勉	〃	佐々木 裕 司
〃	小山内 透	〃	千 葉 貴 子
〃	松 本 建 速	〃	沼 田 和 宏
〃	笹 平 克 子	〃	後 藤 〃
〃	花 坂 政 博		
[資 料 課]			
資 料 課 長	駒 嶺 高 幸		
主 任 文 化 財	高 橋 正 之		
專 門 調 査 員			

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第210集
馬場館遺跡・小吹野遺跡発掘調査報告書

東北横断自動車道秋田線建設関連遺跡発掘調査

印刷 平成7年3月24日

発行 平成7年3月31日

発行 (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
〒020 盛岡市下飯岡11-185
TEL (0196) 38-9001
FAX (0196) 38-8563

印刷 株式会社 杜陵印刷
〒020-01 盛岡市みたけ二丁目22-50
TEL (0196) 41-8000(代)